

分野	基礎分野	履修年次	1
科目	1 論理学	単位（時間）	1（15 時間）
講師名	非常勤講師	試験時間	45 分
学習目標 1. 論理的、批判的思考の基本概念を理解する。 2. 論理的な文章構成や説明ができる。 3. 論理的でわかりやすい文章を作成できる。			
回数	内容	講義方法	
1 回	1. 論理とは何か 2. 論理的、批判的思考とは何か 3. 演繹的思考法と帰納的思考法	講義	
2 回	4. 接続の論理 5. 議論の組み立て	講義 演習	
3 回	6. 論証 7. 演繹と推測の違い	講義 演習	
4 回	8. 演繹 9. 否定と反対	講義 演習	
5 回	10. 推論の技術	講義 演習	
6 回	11. 論理トレーニング演習①	講義 演習	
7 回	12. 論理トレーニング演習②	演習	
8 回	まとめ／終講試験		
評価方法	小テスト、筆記試験		
教科書	野矢茂樹 新版 論理トレーニング 産業図書		
参考書			
自己学習時間	30 時間	自己学習内容	練習問題、課題問題を解く

分野	基礎分野	履修年次	1
科目	2 情報科学 I	単位（時間）	2（30 時間）
講師名	非常勤講師	試験時間	60 分
学習目標			
1. 医療・看護における情報科学の役割を説明できる。			
2. 個人情報保護・情報セキュリティの基本原則を理解できる			
3. 情報処理の基礎的な操作を習得できる			
4. AI 活用事例を批判的に評価できる			
回数	内容	講義方法	
1 回	1. 情報の定義と特徴 2. 医療環境の変化と情報科学の役割 3. AI やビッグデータの活用の基礎知識	講義	
2 回	4. 医療の現場でどのように情報が取り扱われているか 5. 医療における情報システム 6. 病院や地域における ICT 活用	講義	
3 回	7. 情報倫理と医療 8. 患者の権利と情報 9. 個人情報の保護 10. コンピュータリテラシーとセキュリティ	講義 演習	
4 回	11. パソコンの基本操作 1) Word を使った文書作成 2) Excel を使ったデータ処理 3) PowerPoint を使った資料作成	講義 演習	
5 回	12. 安全なインターネット利用 1) パスワード管理の重要性 2) 公共 Wi-Fi 利用時の注意点 3) デバイスのセキュリティ対策 4) インターネットと病院ネットワークの違い	講義 演習	
6 回	13. 情報検索の実際 14. 生成 AI と情報検索 15. 電子メールの基本（メール作成・送受信の基本操作・署名） 16. SNS の基本（主な特徴・利用時の注意点・禁止事項・トラブル例）	講義 演習	
7 回	情報処理演習	演習	
8 回			
9 回			
10 回			
11 回			
	・課題データをもとにソフトウェア（Word・Excel・PowerPoint）を活用し、資料を作成する		

12 回	・ 作成した資料をもとに発表する		
13 回	* 確認テストに基づき、習熟度別演習		
14 回			
15 回	まとめ／終講試験		
評価方法	小テスト（用語・概念）、授業内課題（提出状況・内容評価） 授業への参加態度		
教科書	系統看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院		
参考書			
自己学習時間	15 時間	自己学習内容	事前：操作説明の動画視聴、コンピュータの操作を積極的に行う 事後：課題に取り組む、授業内容について振り返り、復習する

分野	基礎分野	履修年次	1
科目	3 物理と看護	単位（時間）	1（15 時間）
講師名	非常勤講師	試験時間	45 分
学習目標			
1. 物理の基礎の考え方を理解できる。			
2. 日常生活において経験するさまざまな現象の根拠を物理的側面から理解できる。			
3. 看護場面で遭遇する「なぜ？」に対して、物理的根拠を用いて説明できる。			
回数	内容	講義方法	
1 回	1. 物理学を学ぶための準備 (数学を重視：1 次関数の傾きと切、割合の計算、物理学の単位系について等)	講義	
2 回	2. 力学の法則：（ニュートンの第一法則から第三法則、力とはなにか？、力を受ける（受けないと）と物体はどうなるか？など、力と物体の関係をおさえる）	講義 グループディスカッション	
3 回	3. 重いものを持つにはどうしたらよいか（力学の基礎） 1) 力のモーメント 2) てこの原理の人体中での応用 3) 筋肉の張力と関節にはたらく力 4) 腰にかかる力	講義演習	
4 回	4. 看護ボディメカニクスの物理 ベッド上で患者を起こす方法（力の分散と支点の工夫）	講義	
5 回	5. 身近な圧力 1) 圧力とは何か 2) もし気圧が変わったら人間はどうなるか、呼吸器と吸引の物理 1) 肺はどのようにして呼吸をするのか 2) 吸引（胸腔ドレナージ） 3) サイフォン	講義演習	
6 回	6. 循環器と血圧測定の物理 血圧計の仕組み、重力と血圧変化	講義	
7 回	7. 点滴と輸液の物理 1) 重力と流体の流れ、2) 輸液速度の計算	講義	
8 回	まとめ／終講試験		
評価方法	小テスト、筆記試験		
教科書	看護学生のための物理学 第 6 版 佐藤 和良著 医学書院		
参考書	系統看護学講座 基礎分野 物理学		
自己学習時間	30 時間	自己学習内容	技術の動画視聴、計算問題を解く

分野	基礎分野	履修年次	1
科目	4 教育学	単位（時間）	2（30 時間）
講師名	非常勤講師	試験時間	
学習目標 1. 教育学を学ぶことを通して看護に役に立つ考え方や方法を見出すことができる 2. 現代の教育のあり方や課題を見つめ、人間の発達や社会との関係から理解を深めることができる			
回数	内容	講義方法	
1 回	1. 教育とはなにかー教育の概念 2. 教育の対象ー子ども観と発達	講義	
2 回	3. 教授ー人を教えるということ 1) コミュニケーションとしての教えることー看護との比較 2) 学ぶ・教えるということ 3) 省察 4) 「教えるー学ぶ」の関係のなかでおきること	講義	
3 回 4 回	4. 訓練ー他者との関わりを導く 1) 子どもたちの生きづらさ 2) 教師ー生徒関係の不調ー「学級崩壊」 3) 訓練とはなにか 4) かかわりを導く方法 5) 訓練の新たなかたち	講義	
5 回	5. 養護ー教育の受け手を見まもる 1) 養護とは（看護・ケア・養護）「ケア」という用語の使用 2) 学校における養護の機能 3) 学校における養護の過程 4) 今日の学校における保健室の存在と役割	講義	
6 回 7 回	6. 発達ー教育を受けて成長する 1) 看護師に求められる発達の視点 2) 教育による発達の理論 3) 発達における身体と感情 4) 病児の教育、高齢者の看護と発達の理解	講義	
8 回	5. 学びの場ー家庭と学校 1) 家族と学校の関係 2) 家族にとっての学校の意味 3) 「学校に行かない子ども」をどう考えるか	講義	
9 回	8. 教育の目標と評価 1) 評価と目標の関係 2) パフォーマンス評価 3) 評価の主体は誰か	講義	

10 回	9. 教育のメディア—教育をデザインする 1) 看護とメディア 2) メディアとしての教師 3) 学習者どうしのかかわり 4) 協同学習の要件と技法 5) 学習を取り巻く物と空間	講義
11 回	10. 教育の担い手—専門性と専門職性 11. 教育の場の変動—教育環境の変化にどう対応するか	講義
12 回	12. キャリア教育（専門教育） 1) キャリア教育とはなにか 2) 専門教育と職業教育 3) これからのキャリア教育	講義
13 回	13. ジェンダーとセクシュアリティ 1) ジェンダー、セクシュアリティとはなにか 2) ジェンダーと教育の課題 3) セクシュアリティと教育の課題 4) 性の多様性	講義
14 回	14. 特別ニーズ教育・インクルーシブ教育 1) 障害・看護・教育 2) 特別ニーズ教育・インクルーシブ教育とはなにか 3) 障害にどう向き合うか 4) 発達障害に対する特別ニーズ教育・インクルーシブ教育 15. 生涯学習・シティズンシップ教育	講義
15 回	講義まとめ・筆記試験（レポート形式）	
評価方法	筆記試験（最終レポート）、課題への取り組み	
教科書	系統看護学講座 基礎分野 教育学 医学書院	
参考書		
自己学習時間	15 時間	自己学習内容

分野	基礎分野		履修年次	1
科目	5 社会学		単位（時間）	1（15 時間）
講師名	非常勤講師		試験時間	45 分
学習目標				
1. 社会学的なものを見方を学ぶことによって、自己や他者、自分を取り巻く社会を今とは異なる視点からとらえることができるようになる				
2. 看護において必要な健康・病気の社会学的見方を身につける				
回数	内容			講義方法
1 回	1. 社会と社会学 2. 社会学の歴史から学ぶこと			講義
2 回	3. 社会学的視点からのモノの見方 4. 社会学の諸領域と保健医療 5. 社会調査の基本と技法			講義
3 回	6. 健康・病気の見方・とらえ方 1) 健康とはなにか 2) さまざまな健康観 3) 現代社会と病気・健康			講義
4 回	7. 現代社会とストレス 1) ストレスの理論 2) ストレッサーのとらえ方 3) ストレス対処と資源			講義
5 回	8. 健康・病気の社会格差 9. 働き方・働かせ方と健康・病気			講義
6 回 7 回	10. 保健医療における行為・関係・組織・制度 11. ケアの社会学			講義
8 回	まとめ／終講試験			
評価方法	筆記試験、課題への取り組み			
教科書	系統看護学講座 基礎分野 社会学 医学書院			
参考書				
自己学習時間	30 時間	自己学習内容	・テキストに目を通して事前に概要を把握し、関心を高めておく ・提示する課題がある場合は事前に準備して講義に臨む	

分野	基礎分野	履修年次	1
科目	6 倫理学	単位（時間）	1（15 時間）
講師名	非常勤講師	試験時間	45 分
学習目標 1. 医療倫理の基本原則を説明できる。 2. 倫理学と生命倫理の基礎を学び、倫理的問題に対して感受性が高まる。			
回数	内容	講義方法	
1 回	1. 倫理学の基礎 1) なぜ倫理を学ぶのか 2) 倫理とは何か 3) 倫理の基本原則 4) 医療倫理の歴史	講義	
2 回	2. 倫理学の基本的な考え方 1) 倫理を考えるための思考ポイント 2) 事実と価値を区別する 3) 問いを立てる 4) 具体と抽象を行き来する	講義	
3 回	3. 生命倫理	講義	
4 回	4. 生殖の生命倫理	講義	
5 回	5. 死の生命倫理	講義	
6 回	6. 先端医療と制度をめぐる生命倫理	講義	
7 回	7. 倫理的課題への事例分析	講義 ディスカッション	
8 回	まとめ／終講試験		
評価方法	筆記試験（レポート）、		
教科書	系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院		
参考書			
自己学習時間	30 時間	自己学習内容	・テキストに目を通して事前に概要を把握し、関心を高めておく ・提示する課題がある場合は事前に準備して講義に臨む

分野	基礎分野	履修年次	2
科目	7 英語	単位（時間）	2（30 時間）
講師名	非常勤講師	試験時間	45 分
学習目標 1. 看護師として必要な基本的な英単語、英語の表現等を習得する。 2. ロールプレイを通じて、英語で応対する力を養う。 3. 異文化コミュニケーションに必要な心構えを学ぶ。 4. 自ら学習したことを活用し、まとめと発表と評価を行う。			
回数	内容	講義方法	
1 回	1. ユニット 1	講義 90 分	
2 回	2. ユニット 2	講義 90 分	
3 回	3. ユニット 3	講義 90 分	
4 回	4. ユニット 4	講義 90 分	
5 回	5. ユニット 5	講義 90 分	
6 回	6. ユニット 6	講義 90 分	
7 回	7. ユニット 6（症状・徴候） 小テスト	講義 180 分	
8 回	8. ユニット 7	講義 180 分	
9 回	9. ユニット 7（身体各部の名称） 小テスト	講義 90 分	
10 回	10. ユニット 8	講義 90 分	
11 回	11. ユニット 9	講義 90 分	
12 回	12. ユニット 10	講義 90 分	
13 回	13. ユニット 11	講義 90 分	
14 回	14. ユニット 12	講義 90 分	
15 回	講義まとめ・テスト	試験 45 分 講義 45 分	
評価方法	小テスト、筆記試験		
教科書	クリスティーンのやさしい看護英会話 医学書院		
参考書			
自己学習時間	15 時間	自己学習内容	・テキストに目を通して事前に概要を把握し、関心を高めておく ・提示する課題がある場合は事前に準備して講義に臨む

分野	基礎分野		履修年次	1
科目	8－1　レクリエーション論（選択科目）		単位（時間）	1（15 時間）
講師名	非常勤講師		試験時間	分
学習目標				
1.　レクリエーションの意味と歴史について理解する。				
2.　ライフサイクルとレクリエーションの関係について理解する。				
3.　個人と集団におけるレクリエーションの実際を企画することができる。				
4.　企画したレクリエーションを通して、心身の健康を保持しコミュニケーションを図ることができる。				
回数	内容			講義方法
1 回	1.　レクリエーションの概要、定義			講義 90 分
2 回	2.　レクリエーション・インストラクターの役割			講義 90 分
3 回	3.　レクリエーション・インストラクターのスキル			講義 90 分
4 回	4.　ライフステージとレクリエーション			講義 90 分
5 回	5.　高齢社会とレクリエーション			講義 90 分
6 回	6.　少子化とレクリエーション			講義 90 分
7 回	7.　地域とレクリエーション			講義 90 分
8 回	8.　レクリエーションの企画、計画書の作成、発表			試験 45 分
評価方法	筆記試験			
教科書	日本レクレーション協会刊行 レクリエーション支援の基礎～楽しさ・心地よさを活かす理論と技術			
参考書				
自己学習時間	30 時間	自己学習内容	・テキストに目を通して事前に概要を把握し、関心を高めておく ・提示する課題がある場合は事前に準備して講義に臨む	

分野	基礎分野		履修年次	1
科目	8－2 行動科学（選択科目）		単位（時間）	1（15 時間）
講師名	非常勤講師		試験時間	45 分
学習目標				
1. 健康や疾病をめぐる行動変容支援の理論を理解する。				
2. 体験学習をととして行動変容支援の実際について理解する。				
回数	内容			講義方法
1 回	1. 行動科学の基礎			講義
2 回	2. 行動変容支援の理論			グループワー
3 回	3. 行動変容支援の実際			ク
4 回	4. 行動の目標化への支援			講義
5 回	5. 動機付け面接の実際			グループワー
6 回	1) 両価性を伴う面談での基本の確認			ク
7 回	2) かかわるプロセス（聞き返しのワーク）			講義
8 回	3) 4つのスキル（OARS）を使ったワーク			グループワー
	4) チェンジトーク・維持トークへの対応			ク
	5) 不協和への対応 など			講義
				グループワー
				ク
評価方法	筆記試験、課題への取り組み			
教科書	健康づくりのための理論と応用 改訂第2版 南江堂			
参考書				
自己学習時間	30時間	自己学習内容	・テキストに目を通して事前に概要を把握し、関心を高めておく ・提示する課題がある場合は事前に準備して講義に臨む	

分野	基礎分野	履修年次	1
科目	9 心理学	単位（時間）	2（30 時間）
講師名	非常勤講師	試験時間	45 分
学習目標 1. 心理学を学ぶ意義を理解する。 2. 機能としての心の働きについて学ぶ。 3. 他者との関わりの中で生じる心理について理解する。 4. さまざまな心理的援助方法について学ぶ。			
回数	内容	講義方法	
1 回	1. ガイダンス・心理学とは	講義 90 分	
2 回	2. 感覚と知覚	講義 90 分	
3 回	3. 記憶	講義 90 分	
4 回	4. 思考・言語・知能	講義 90 分	
5 回	5. 学習	講義 90 分	
6 回	6. 感情と動機づけ	講義 90 分	
7 回	7. 性格とパーソナリティ	講義 90 分	
8 回	8. 社会と集団	講義 90 分	
9 回	1) 態度と積極的コミュニケーション 2) 集団とリーダーシップ	講義 90 分	
10 回	9. 発達	講義 90 分	
11 回	1) 発達の段階と課題	講義 90 分	
12 回	2) 各期の発達（乳幼児、児童・青年、成人・高齢者）	講義 90 分	
13 回	10. 心理臨床	講義 90 分	
14 回	1) 心の適応と不適応 2) 心理療法	講義 90 分	
15 回	11. 医療・看護と心理	講義 90 分	
	1) 医療職と対人援助 2) 患者の心理 3) 医療・看護職の心理	講義 90 分	
	4) 医療・看護職の心のケア	講義 45 分	
	講義まとめ・テスト	試験 45 分	
評価方法	レポート課題		
教科書	系統看護学講座 基礎分野 心理学 医学書院		
参考書			
自己学習時間	15 時間	自己学習内容	・テキストに目を通して事前に概要を把握し、関心を高めておく ・提示する課題がある場合は事前に準備して講義に臨む

分野	基礎分野	履修年次	1
科目	10 人間関係論	単位（時間）	2（30 時間）
講師名	非常勤講師	試験時間	45 分
学習目標 1. 看護師として必要な対人関係の基本について理解する。 2. 人間関係をつくる理論と技法について学際的な知見にもとづき理解する。			
回数	内容	講義方法	
1 回	人間関係論とは	講義 90 分	
2 回	人間関係の中の自己と他者	講義 90 分	
3 回	対人関係の成立	講義 90 分	
4 回	対人関係の維持と崩壊	講義 90 分	
5 回	対人葛藤と対処（認知バイアス/不合理な思考）	講義 90 分	
6 回	社会的役割とバーンアウト	講義 90 分	
7 回	態度と対人行動（説得的コミュニケーション/攻撃）	講義 90 分	
8 回	集団と個人（集団の特性/リーダーシップ）	講義 90 分	
9 回	人間関係をつくる理論と技法	講義 90 分	
10 回	コミュニケーション（ICT の発達とコミュニケーション）	講義 90 分	
11 回	カウンセリングと心理療法	講義 90 分	
12 回	コーチング（コーチングの理論とスキル/看護への応用）	講義 90 分	
13 回	アサーティブコミュニケーション	講義 90 分	
14 回	保健医療における人間関係 （保健医療チームの人間関係/患者を支える人間関係）	講義 90 分	
15 回	保健医療における人間関係 （家族を含めた人間関係/地域をつくる人間関係）	講義 45 分 試験 45 分	
評価方法	筆記試験（レポート）、小テスト		
教科書	系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院		
参考書			
自己学習時間	30 時間	自己学習内容	・テキストに目を通して事前に概要を把握し、関心を高めておく ・提示する課題がある場合は事前に準備して講義に臨む

専門基礎分野

分野	専門基礎分野	人体の構造と機能	履修年次	1
科目	11	解剖生理学Ⅰ	単位（時間）	1（30 時間）
講師名	非常勤講師		試験時間	4 5 分
学習目標				
1. 解剖生理学の基礎知識として、身体のとらえ方を理解できる。				
2. 「食べる」・「栄養素を身体にとりこむ」・「老廃物を排泄する」消化器系の構造と機能を理解できる。				
3. 清浄な空気を肺に送り肺胞でガス交換を行いながら生命を維持する呼吸器系の構造と血液しくみが理解できる。				
回数	内容			講義方法
1、2 回	1. 解剖生理学のための基礎知識 1) 構造からみた人体 2) 人体のさまざまな器官			講義
3～5 回	3) 素材からみた人体			講義
6～9 回	2. 栄養の消化と吸収 1) 口・咽頭・食道の構造と機能 2) 腹部消化管の構造と機能 3) 脾臓 4) 腹膜			講義
10～12 回	3. 呼吸と血液のはたらき 1) 呼吸器の構造 2) 呼吸			講義
13～14 回	3) 血液			講義
15 回	まとめ・終講試験			
評価方法	筆記試験			
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能【1】 解剖生理学 医学書院			
備考				
自己学習時間	1 0 時間	自己学習内容	テキスト学習、課題に取り組む	

分野	専門基礎分野	人体の構造と機能	履修年次	1
科目	12	解剖生理学Ⅱ	単位（時間）	1（30 時間）
講師名	非常勤講師		試験時間	4 5 分
学習目標				
1. 血液の循環とその調整をしている循環器系の構造と機能が理解できる。				
2. 尿生成しながら、老廃物を体外に排泄している腎・泌尿器系の構造と機能が理解できる。				
回数	内容			講義方法
1 回	1. 血液の循環とその調整 1) 循環器系の構造			講義
2、3 回	2) 心臓の拍出機能			講義
4、5 回	3) 末梢循環器系の構造			講義
6、7 回	4) 血液の循環の調節			講義
8 回	5) リンパとリンパ管			講義
9、10 回	2. 体液の調整と尿の生成 1) 腎臓の構造と機能			講義
11、12 回	2) 排尿器			講義
13、14 回	3) 体液の調整			講義
15 回	まとめ・終講試験			
評価方法	筆記試験			
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能【1】 解剖生理学 医学書院			
備考				
自己学習時間	1 0 時間	自己学習内容	テキスト学習、課題に取り組む	

分野	専門基礎分野	人体の構造と機能	履修年次	1
科目	13	解剖生理学Ⅲ	単位（時間）	1（30 時間）
講師名	非常勤講師		試験時間	4 5 分
学習目標				
1. 生体内外の環境の変化に応じたさまざまな臓器の機能状態を理解できる。				
2. 身体の指示と運動について理解できる。				
回数	内容			講義方法
1 回	1. 内臓機能の調整 1) 自律神経による調整			講義
2 回	2) 内分泌系による調節			講義
3～5 回	3) 全身の内分泌腺と内分泌細胞			講義
6、7 回	4) ホルモン分泌調整 5) ホルモンによる調整の実際			講義
8～10 回	2. 身体の指示と運動 1) 骨格とはどのようなものなのか 2) 骨格の連結 3) 骨格筋 4) 体幹の骨格と筋			講義
11 回	5) 上肢の骨格と筋 6) 下肢の骨格と筋			講義
12 回	7) 頭頸部の骨格と筋			講義
13、14 回	8) 筋の収縮 9) 運動と代謝			講義
15 回	まとめ・終講試験			
評価方法	筆記試験			
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能【1】 解剖生理学 医学書院			
備考				
自己学習時間	1 0 時間	自己学習内容	テキスト学習、課題に取り組む	

分野・区分	専門基礎分野	人体の構造と機能	履修年次	1
科目	14	解剖生理学Ⅳ	単位（時間）	1（30 時間）
講師名	非常勤講師		試験時間	4 5 分
学習目標				
1. 生殖・発生と老化のしくみについて理解できる。				
2. 体表からみた人体の構造について理解できる。				
回数	内容			講義方法
1 回	1. 生殖・発生と老化のしくみ 1) 男性生殖器 2) 女性生殖器			
2 回	3) 受精と胎児の発生			
3 回	4) 成長と老化			
4 回	5) 老化			
6 回 7 回	1. 情報の受容と処理 1) 神経系の構造と機能 2) 脊髄と脳 3) 脊髄神経と脳神経			
8 回	4)運動機能と下行伝達路 5) 感覚機能 6) 体性感覚と上行伝達路 7) 目の構造と視角 8) 耳の構造と聴覚・平衡覚			
9 回	9) 味覚と嗅覚 10) 痛み			
10 回	11) 脳の統合機能			
11 回	2. 身体機能の防御と適応 1) 皮膚の構造と機能 2) 生体の防御機構			
12 回	3) 体温とその調整			
13 回 14 回	3. 体表からみた人体の構造 1) 体表から触知できる骨格部分 2) 体表から触知できる大きな筋 3) 体表から触知できる動脈			
15 回	まとめ・終講試験			
評価方法	筆記試験			
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能【1】 解剖生理学 医学書院			
備考				
自己学習時間	10 時間	自己学習内容	テキスト学習、課題に取り組む	

分野・区分	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	履修年次	1
科目	15 疾病の成り立ち（微生物）	単位（時間）	1（30 時間）
講師名	非常勤講師	試験時間	4 5 分
学習目標 1. 健康を脅かす微生物の基礎的知識を学ぶ。 2. 感染症を起こす病原微生物について理解する。 3. 感染症とその変貌を理解する。 4. 医薬品による健康障害を理解する。			
回数	教育内容	講義形態	
1 回	1. 健康状態をおびやかす微生物 1) 微生物の性質 (1) 種類と特徴 (2) 生物学的位置 2) 微生物と人間 3) 微生物学の対象と目的 4) 微生物の歩み	講義	
2 回	2. 細菌の性質 1) 細菌の形態と特徴 2) 培養環境と栄養 3) 細菌の遺伝 4) 細菌の分類 5) 常在細菌叢	講義	
3 回	3. ウイルスの性質 1) 特徴 2) 構造と機能 3) 増殖 4) 分類	講義	
4 回	4. 真菌の性質 1) 特徴 2) 構造と機能 3) 増殖 4) 分類	講義	
5 回	5. 感染とその防御 1) 感染と感染症 (1) 感染とは (2) 感染の成立（経路）から発症後の経過 (3) 細菌感染の機構 (4) ウイルス感染の機構 (5) ウイルス感染の機構	講義	
6 回 7 回	6. 感染に対する生体防御機構 1) 自然免疫、獲得免疫、粘膜免疫 2) 予防接種 7. アレルギー疾患 8. 自己免疫疾患及び類縁疾患 1) A 群溶結性連鎖球菌 2) カンピロバクター 9. 臓器移植 移植免疫	講義	
8～14 回	感染症 1) グラム陽性球菌 2) グラム陰性球菌・グラム陰性好気性桿菌 3) グラム陰性通性桿菌	講義	

	4) 抗酸菌、放射線菌、嫌気菌、スピロヘータ、マイコプラズマ 5) クラミジア、リケッチア、真菌、原虫 6) DNA ウイルス 7) RNA ウイルス	
15 回	まとめ・終講試験	
評価方法	筆記試験	
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進【4】 微生物学 医学書院	
備考		
自己学習時間	10 時間	自己学習内容 テキスト学習、課題に取り組む

分野・区分	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	履修年次	1
科目	16 疾病の成り立ち（病理）	単位(時間)	1（30 時間）
講師名	非常勤講師	試験時間	4 5 分
学習目標			
1. 健康から疾病に至る変化の過程を日常生活との関連で理解する。			
2. さまざまな疾病がもたらす身体内部の変化を理解する。			
回数	教育内容	講義形態	
1 回	1. 病気と病理学 1) 病気とは 2) 病気のみかた 3) 病理学とは	講義	
2 回	2. 老化現象と病気との関係 1) 老化現象 2) 老化に関連した病気 3) 老化のメカニズム 4) 人間の死 (1) 死の三徴候 (2) 脳死 5) 死後硬直	講義	
3 回	3. 組織・細胞に生じる異常と修復 1) 細胞、組織、臓器 2) 細胞障害と形態変化 3) 細胞増殖と分化 4) 創傷、修復	講義	
4 回 5 回	4. 炎症 1) 外因と内因 2) 急性炎症 3) 慢性炎症 5. 免疫とその異常 1) 生体防御と免疫 2) 免疫とは 3) アレルギー 4) 移植臓器、組織に対する免疫反応	講義	
6 回 7 回	6. 止血と循環 1) 循環系のしくみ 2) 止血のしくみと異常 3) 微小循環の異常 3) 血栓、塞栓、梗塞 4) 全身循環の異常	講義	
8 回	7. 先天異常 1) 先天異常 2) 奇形 3) 染色体異常 4) 遺伝子異常	講義	
9 回 10 回	8. 感染症 1) 主な病原体 2) 生体防御のしくみ 3) 感染の成立 4) 代表的な感染症	講義	
11 回	9. がん 1) 腫瘍とは 2) 腫瘍の発生 3) 発がん物質と変異原生	講義	
12 回	10. 生活習慣病 1) 動脈硬化 2) 高血圧 3) 糖尿病 4) 肥満症	講義	
13 回 14 回	11. 難病 1) 免疫不全 2) 自己免疫疾患 3) 血管炎 4) 染色体異常	講義	
15 回	まとめ・終講試験		
評価方法	筆記試験		

教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進【1】 病理学 医学書院		
備考			
自己学習時間	10時間	自己学習内容	テキスト学習、課題に取り組む

分野・区分	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	履修年次	1
科目	17 薬理学	単位(時間)	1 (30 時間)
講師名	非常勤講師	試験時間	4 5 分
学習目標 1. 薬物の種類と特徴、作用機序について理解する。 2. 薬物に関する生体の反応について理解する。 3. 薬物の有効性や安全性について理解し、安全に薬剤を提供する必要性を認識する。			
回数	教育内容	講義形態	
1 回	1. 薬理学とは 1) 薬理学のなりたち 2) 薬による病気の治療 2. 看護業務に必要な薬の知識 1) 薬に関する単位 2) 処方箋 6) 医薬品添付文書	講義	
2 回	3. 薬理学の基礎知識 1) 薬が作用するしくみ 2) 薬の体内の挙動 3) 薬物相互作用 4) 薬物の個人差に影響する因子 5) 薬物使用の有益性と危険性 6) 薬と法律	講義	
3 回	4. 抗感染症薬 1) 感染症治療に関する基礎事項 2) 抗感染症薬各論 3) 特殊な感染症の治療薬 4) 感染症治療の問題点	講義	
4 回	5. 抗がん薬 1) がん治療に関する基礎事項 2) 抗がん薬各論	講義	
5 回	6. 免疫治療薬 1) 免疫系の基礎知識 2) 免疫抑制薬 3) 免疫増強薬・予防接種薬	講義	
6 回	7. 抗アレルギー薬・抗炎症薬 1) 抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬 2) 炎症と抗炎症薬 3) 関節リウマチ治療薬 4) 痛風・高尿酸血症治療薬	講義	
7 回	8. 末梢神経に作用する薬物 1) 神経系による情報伝達 2) 自律神経系作用薬 3) 交感神経作用薬 4) 副交感神経作用薬 5) 筋弛緩薬・局所麻酔薬	講義	
8 回	9. 中枢神経系に作用する薬 1) 中枢神経系のはたらきと薬物 2) 全身麻酔薬 3) 催眠薬・抗不安薬 4) 抗精神病薬 5) 抗うつ薬・気分安定薬 6) パーキンソン症候群治療薬 7) 抗てんかん薬 8) 麻薬性鎮痛薬	講義	
9 回	10. 循環器系に作用する薬 1) 降圧薬 2) 狭心症治療薬 3) 心不全治療薬 4) 抗不整脈薬 5) 利尿薬	講義	

	6) 脂質異常症治療薬 7) 血液に作用する薬物	
10 回	11. 呼吸器、消化器・生殖器系に作用する薬物 1) 気管支喘息治療薬 2) 鎮咳薬・去痰薬・呼吸促進薬 3) 消化性潰瘍治療薬 4) 健胃・消化薬と消化管運動促進薬 5) 女性生殖器に作用する薬物 6) 男性生殖器に作用する薬物 7) 泌尿器に作用する薬物	講義
11 回	12. 物質代謝に作用する薬物 1) ホルモンとホルモン拮抗薬 2) 治療薬としてのビタミン	講義
12 回	13. 皮膚科用薬・眼科用薬 1) 皮膚に使用する薬物 2) 眼科用薬 14. 救急の際に使用される薬剤 1) 救急に用いられる薬物 2) 急性中毒に対する薬物	講義
13 回	15. 漢方薬 1) 漢方医学の基礎知識 2) 漢方薬各論 16. 消毒薬	講義
14 回	17. 輸液製剤・輸血剤 1) 輸液製剤 2) 輸血剤	講義
15 回	まとめ・終講試験	講義
評価方法	筆記試験	
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進【3】 薬理学 医学書院	
備考		
自己学習時間	10時間	自己学習内容 テキスト学習、課題に取り組む

分野・区分	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	履修年次	1
科目	18 疾病と治療 I (運動機能障害と治療)	単位(時間)	1 (30 時間)
講師名	非常勤講師	試験時間	4 5 分
学習目標 1. 運動器系の機能障害のメカニズムと治療による回復過程を理解する。 2. 脳神経系の機能障害のメカニズムと治療による回復過程を理解する。			
回数	教育内容	講義方法	
1 回	1. 運動器の構造と機能障害 1) 骨 2) 関節 3) 筋肉、末梢神経、脊髄	講義	
2～5 回	2. 疾患の診断と治療 1) 変形性関節症 2) 脊椎・脊髄疾患 3) 末梢神経の損傷と障害 4) 骨粗鬆症 5) 骨折 6) スポーツ障害 7) 骨・軟部の腫瘍 8) 腱、骨折、神経断裂に伴う治療処置・留意点	講義	
6～7 回	3. 脳神経系の構造と機能障害 1) 末梢神経系 2) 中枢神経系 3) 髄膜 4) 血管	講義	
8～10 回	4. 疾患の診断と内科的、外科的治療 1) 脳血管障害 2) 神経系の腫瘍 3) 神経系の感染症 4) 機能性疾患 5) 神経変性疾患 6) 脱髄性疾患 7) 脊髄・脊椎疾患 8) 末梢神経疾患 9) 筋疾患 10) 頭部外傷	講義	
11～15 回	5. 運動療法 1) 運動療法とは 2) 運動療法の目的 3) 運動療法の対象となる疾患 4) 運動療法の原則 5) 運動療法の効果と副作用		

	6) 運動療法の種類と特徴 6. リハビリテーション療法とは 1) リハビリテーション医学とは 2) リハビリテーション療法の目的 3) リハビリテーション療法の種類と特徴 (1) 理学療法 (2) 作業療法 (3) 言語療法		
16 回	まとめ・終講試験		
評価方法	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学【10】 運動器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学【7】 脳神経 医学書院		
備考			
自己学習時間	10時間	自己学習内容	テキスト学習、課題に取り組む

分野・区分	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	履修年次	1
科目	19 疾病と治療Ⅱ（呼吸器・循環器機能障害と治療）	単位(時間)	1（30 時間）
講師名	非常勤講師	試験時間	4 5 分
学習目標 1. 呼吸器系の機能障害のメカニズムと治療による回復過程を理解する。 2. 循環器系の機能障害のメカニズムと治療による回復過程を理解する。			
回数	教育内容	講義方法	
1 回	1. 呼吸器の構造と機能障害 A. 呼吸器の構造 B. 呼吸器の機能	講義	
2 回	2. 症状とその病態生理 A. 喀痰 血痰 咯血 B. 咳嗽 C. 胸痛 D. 呼吸困難 E. 他覚症状：チアノーゼ ばち指 発熱 呼吸の異常 声の異常 意識障害	講義	
3 回	3. 検査と治療・処置 A. 診察と診断の流れ 問診 身体所見（視診 触診 打診 聴診） B. 検査 血液検査 喀痰検査 胸水検査 画像診断	講義	
4 回	内視鏡検査 生検 呼吸機能検査 アプノモニター C. 治療・処置 吸入療法 酸素療法 人工呼吸 呼吸理学 気道確保 胸腔ドレナージ 呼吸器外科の手術	講義	
5 回	4. 疾患の理解 A. 感染症（かぜ 急性気管支炎 インフルエンザ 肺炎 肺炎各論 結核 非結核性抗酸菌症） B. 間質性肺疾患（IIP サルコイドーシス 好酸球性肺疾患 過敏性肺炎 じん肺 膠原病に伴う肺疾患 薬剤性肺疾患 放射線肺炎）	講義	
6 回	C. 気道疾患		

7 回	(気管支喘息 気管支拡張症 COPD) D. 肺血栓塞栓症 E. 呼吸不全 (病態生理 ARDS 肺性心) F. 呼吸調節に関する疾患 (過換気症候群 SAS) G. 肺腫瘍 (良性腫瘍 悪性腫瘍) H. 肺・肺血管の形成異常 (肺分画症 肺動静脈瘻) I. 胸膜・縦隔膜疾患 (胸膜炎 膿胸 自然気胸 胸膜腫瘍 縦隔炎 縦隔腫瘍 横隔膜神経麻痺 横隔膜ヘルニア)	講義 講義
8 回	J. 肺移植 K. 胸部外傷 (肋骨骨折 横隔膜破裂 肺損傷 気管・気管支損傷)	講義
9 回	5. 循環器の構造と機能障害	
10 回	6. 症状とその病態生理 1) 胸痛 2) 動機 3) 呼吸困難 4) 浮腫 5) チアノーゼ 6) めまい・失神 7) 四肢の疼痛 8) ショック	講義
11、12 回	7. 検査と治療 1) 診察と診断の流れ 2) 検査 (1) 心電図、胸部 X 線検査 (3) 心エコー (4) 脳波検査 (5) 心臓カテーテル (6) 血行動態モニタリング (7) 心臓核医学検査 3) 治療 (1) 内科的治療 (2) 外科的治療 (3) 補助循環装置	
13～15 回	8. 疾患の理解 1) 心臓の構造の障害 2) 血管の異常による疾患 3) 肺の異常による疾患 4) 循環器疾患の危険因子と動脈硬化 5) 虚血性疾患 6) 心不全 7) 血圧異常	

	8) 不整脈 9) 弁膜症 10) 心膜炎・心タンポナーゼ 11) 心筋疾患 12) 肺性心 13) 先天性疾患 14) 動脈系疾患 15) 静脈系疾患 16) リンパ系疾患	
16 回	まとめ・終講試験	
評価方法	筆記試験	
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学【2】 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学【3】 循環器 医学書院	
備考		
自己学習時間	10時間	自己学習内容 テキスト学習、課題に取り組む

分野・区分	専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	履修年次	1
科目	20 疾病と治療Ⅲ（吸収・代謝・排泄機能障害と治療）		単位(時間)	1（30 時間）
講師名	非常勤講師		試験時間	4 5 分
学習目標				
1. 消化器系の機能障害のメカニズムと治療による回復過程を理解する。				
2. 腎・泌尿器系の機能障害のメカニズムと治療による回復過程を理解する。				
回数	教育内容			講義方法
1 回	1. 総論① 消化器の構造と機能 2. 総論② 検査と治療について 3. 食道疾患 4. 胃・十二指腸疾患 5. 小腸、大腸疾患（外科領域） 6. 小腸・大腸疾患（内科領域） 7. 肝臓疾患① 8. 肝臓疾患② 9. 胆道疾患 10. 膵疾患 11. 腎の構造と機能障害 1) 症状と病態生理 2) 検査と治療 12. 腎疾患の理解 13. 泌尿器の構造と機能障害 1) 症状と病態生理 2) 検査と治療 14. 泌尿器疾患の理解 講義のまとめ・テスト			講義
2 回				
3 回				
4 回				
5 回				
6 回				
7 回				
8 回				
9 回				
10 回				
11 回				
12 回				
13 回				
14 回				
15 回				
評価方法	筆記試験			
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学【8】 消化器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学【5】 腎・泌尿器 医学書院			
備考				
自己学習時間	10 時間	自己学習内容	テキスト学習、課題に取り組む	

分野・区分	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	履修年次	1
科目	21 疾病と治療Ⅳ（中枢神経・感覚器機能障害と治療）	単位(時間)	1 (30 時間)
講師名	非常勤講師	試験時間	4 5 分
学習目標	1. 感覚器管系の機能障害のメカニズムと治療による回復過程を理解する。 2. 歯科・口腔系疾患の機能障害のメカニズムと治療による回復を理解する。 3. 生殖器疾患の機能障害のメカニズムと治療による回復過程を理解する。		
回数	教育内容	時 間	方法と留意点
1 回	1. 皮膚の構造と機能障害	講義 90 分	(講師)
2 回	2. 皮膚疾患の診断と治療	講義 90 分	
3 回	3. 耳鼻咽喉の構造と機能障害	講義 90 分	(講師)
4 回	4. 耳鼻咽喉の診断と治療	講義 90 分	
5 回	5. 眼の構造と機能障害	講義 90 分	(梯)
	6. 眼の疾患（眼瞼、結膜、角膜、水晶体、眼底）		
6 回	7. 眼の手術	講義 90 分	
7 回	8. 歯科・口腔の構造と機能障害	講義 90 分	(萩原)
	9. 歯科・口腔疾患の診断と治療		歯科・口腔の学習内容を 2 回追加し計 4 回
	10. 口腔ケアについて		で実施する。
8 回	11. 嚥下障害	講義 90 分	(堀内ほか)
9 回		講義 90 分	
10 回		講義 90 分	
11 回		講義 90 分	
12 回		講義 90 分	
13 回		講義 90 分	
14 回		講義 90 分	
15 回		講義 45 分 試験 45 分	
評価方法	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学【12】 皮膚 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学【14】 耳鼻咽喉 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学【13】 眼 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学【15】 歯・口腔 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学【9】 女性生殖器 医学書院		
備考			
自己学習時間	10 時間	自己学習内容	テキスト学習、課題に取り組む

分野・区分	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	履修年次	1
科目	22 疾病と治療Ⅴ（内部環境・血液・造血器、生体防御機能障害と治療）	単位(時間)	1 (30 時間)
講師名	非常勤講師	試験時間	4 5 分
学習目標 1. 代謝・内分泌系の機能障害のメカニズムと治療による回復過程を理解する。 2. 血液・造血器系の機能障害のメカニズムと治療による回復過程を理解する。 3. アレルギー・膠原病の疾患のメカニズムと治療による回復過程を理解する。			
回数	教育内容	講義方法	
1 回	1. 内分泌・総論		
2 回	2. 内分泌・各論		
3 回	3. 代謝・総論		
4 回	4. 代謝・各論		
5 回	5. 血液・造血器の構造と機能障害		
6 回	6. 血液・造血器疾患の診断と治療		
	1) 赤血球系疾患		
	2) 白血球系疾患		
	3) 出血性疾患		
7～8 回	3. 放射線診断と治療		
	1) 放射線と放射能の基礎		
	2) 放射線の影響		
	3) 放射線事故の防護		
	4) 放射線治療の基礎		
	5) 放射線診断の基礎		
	6) 核医学診断		
	7) 放射線治療における看護師の役割		
9～10 回	4. 化学療法		
	1) 化学療法の基礎知識		
	2) 安全な取扱いと副作用について		
	3) 癌化学療法のチーム医療における看護師の役割		
11～12 回	7. アレルギー		
	1) アレルギー疾患		
	2) 自己免疫疾患		
	3) アレルゲン		
	4) アレルギーの治療		
13～14 回	8. 膠原病		
	1) 自己免疫疾患とその機序		
	2) 症状と病態		
15 回	3) 疾患の理解		
	講義のまとめ・テスト		

評価方法	筆記試験			
教科書	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学【6】	内分泌・代謝 医学書院
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学【4】	血液・造血 医学書院
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学【11】	アレルギー 膠原病 感染症 医学書院
備考				
自己学習時間	10時間	自己学習内容	テキスト学習、課題に取り組む	

分野・区分	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	履修年次
科目	23 疾病と治療Ⅵ（生殖機能の障害と治療）	単位(時間)
講師名	非常勤講師	試験時間
学習目標 1. 女性生殖機能の障害のメカニズムと治療による回復過程を理解する。 2. 妊娠・出産における異常を理解できる。		
回数	教育内容	講義方法
1 回	1. 生殖器の構造と機能障害 1) 外性器・内性器の構造と機能 2) 乳房の構造と機能 3) 生殖機能の発達と調整	講義
2 回	2. 症状とその病態生理 (1) 性器出血 (2) 帯下 (3) 外陰部掻痒感 (4) 下腹部痛、下腹部膨満感、腫瘤感 (5) 自律神経症状・不定愁訴 (6) 排尿障害	講義
3 回	3. 診断・検査と治療・処置 1) 診察・検査 (1) 診察・検査に共通する器具 (2) 診察・治療に用いる器具 (3) 理学的検査 (4) 病理的検査 (5) 細菌・ウイルス・真菌・原虫検査 (6) 画像検査 (7) 腫瘍マーカー検査 (8) 妊娠検査 (9) 内視鏡検査 (10) 染色体検査・遺伝子検査	講義
4 回	2) 治療・処置 (1) 薬物療法 (2) 手術 (3) 放射線療法 (4) 外来などで行われる処置・治療 (5) 避妊	講義
5 回	4. 疾患の理解 1) 性分化疾患 2) 臓器別疾患 3) 機能的疾患 4) 性的疾患	講義
6 回	5. 不妊治療	講義

	1) 不妊とその原因 2) 不妊検査 3) 不妊治療	
7 回	6. 妊娠・分娩・新生児・産褥の異常 1) 妊娠の異常と検査・治療 (1) ハイリスク妊娠 (2) 妊娠期の感染症 (3) 多胎妊娠 (4) 妊娠持続期間の異常 (5) 異所性妊娠 7. 分娩の異常と検査・治療 1) 産道の異常 2) 娩出力の異常 3) 胎児および胎児附属物の異常 4) 分娩損傷 5) 異常出血 6) 産科処置と産科手術 など	講義
8 回	3. 産褥の異常と検査・治療 1) 子宮復古不全 2) 産褥期の発熱 3) 精神障害 など 4. 新生児の異常と検査・治療 1) 新生児仮死 2) 分娩外傷 3) 低出生体重児 4) 高ビリルビン血症	講義
9 回	講義のまとめ・テスト	
評価方法	筆記試験	
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学【9】 女性生殖気 医学書院 系統看護学講座 専門分野 母性看護学【2】 母性看護学各論 医学書院	
備考		
自己学習時間	10 時間	自己学習内容 テキスト学習、課題に取り組む

分野・区分	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	履修年次	1
科目	24 疾病と治療Ⅶ（小児に特徴的な機能障害と治療）	単位(時間)	1 (15 時間)
講師名	非常勤講師	試験時間	4 5 分
学習目標	1. 小児の健康障害の特徴と治療について理解する。 2. 健康障害が子どもや家族に与える影響を知り、その援助方法について理解できる。 3. 子どもによくみられる症状とその看護について理解する。		
回数	教育内容	方法と留意点	
1 回	1. 小児の疾病の成り立ちと治療・回復過程 1) 小児科学総論 (1) 解剖生理学的特徴 (2) 薬の使い方		
2 回	2) 先天性疾患 (1) 染色体異常 3) 新生児期の疾患 (1) 分娩時損傷 (2) 新生児仮死 (3) 呼吸窮迫症候群 (4) 胎便吸引症候群 (5) 壊死性腸炎 (6) 高ビリルビン血症、核黄疸 (7) 乳幼児突然死症候群		
3 回	4) 代謝性疾患 (1) 先天代謝異常症 (2) 糖尿病 5) 免疫・アレルギー疾患 (1) 食物アレルギー (2) 気管支喘息 6) 感染症 (1) ウイルス感染症 (2) 細菌感染症		
4 回	7) 呼吸器疾患 (1) 肺炎、気管支炎 (2) クループ (3) 急性咽頭炎 8) 循環器疾患 (1) 先天性心疾患 (2) 川崎病		
5 回	9) 消化器疾患 (1) 先天性食道狭窄症 (2) 肥厚性幽門狭窄症 (3) ヒルシュスプルング病 (4) 腸重積症 (5) 胆道閉鎖症 (6) 鎖肛 (7) 感染性胃腸炎		
6 回	10) 血液疾患 (1) 特発性血小板減少性紫斑病 (2) 白血病 (3) 血友病 11) 腎疾患 (1) 糸球体腎炎 (2) ネフローゼ (3) 尿路奇形		
7 回	12) 神経疾患 (1) けいれん (2) てんかん (3) 髄膜炎 (4) 脳炎 13) 精神疾患		

	(1) 発達障害 (2) 自閉スペクトラム症		
評価方法	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学【1】 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学【2】 小児臨床看護各論 医学書院		
備考			
自己学習時間	15 時間	学習内容	・テキストに目を通して事前に概要を把握し、関心を高めておく ・提示する課題がある場合は事前に準備して講義に臨む

分野・区分	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進		履修年次	1
科目	25 疾病と治療Ⅷ（精神障害と治療）		単位(時間)	1 (15 時間)
講師名	非常勤講師		試験時間	4 5 分
回数	教育内容			講義方法
1～2 回	1. 精神疾患の診断と分類 1) 精神症状と状態 (1) 症状とは何か (2) 精神症状 ①知覚障害 ②思考障害 ③自我意識障害 ④感情障害 ⑤意欲・行動障害 ⑥意識障害 ⑦知能障害 ⑧記憶障害 ⑨強迫障害 (3) 状態像 ①不安状態 ②心気状態 ③幻覚妄想状態 ④抑うつ状態 ⑤精神運動興奮状態 ⑥昏迷状態 ⑦無為・自閉状態 ⑧引きこもり状態			講義
3 回	2) 診断と疾病分類 (1) 診断と分類 (2) 疾患と障害			講義
4～8 回	2. 精神疾患の検査と治療 1) 疾患 (1) 統合失調症患者 (2) 気分障害患者 (3) 身体表現性障害患者 (4) 物質関連障害患者 (5) 境界性パーソナリティ障害 (6) 児童・思春期に起こりやすい精神障害 ①発達障害(精神遅滞、自閉症、ADHD) ②神経症障害(不登校、家庭内暴力、摂食障害) 2) 検査 (1) 脳波検査 (2) CT・MRI 検査 (3) 心理療法 3) 治療 (1) 薬物療法 (2) 電気けいれん療法 (3) 社会復帰療法 (4) リハビリテーション療法			講義
評価方法	筆記試験			
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学【1】精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学【2】精神看護の展開 医学書院			
備考				
自己学習時間	15 時間	学習内容	・テキストに目を通して事前に概要を把握し、関心を高めておく ・提示する課題がある場合は事前に準備して講義に臨む	

分野・区分	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	履修年次	1
科目	26 栄養学（物質の代謝・食事療法）	単位(時間)	1（15 時間）
講師名	非常勤講師	試験時間	4 5 分
学習目標			
1. 生体を構成する物質とその代謝について理解する。			
2. 疾病予防・回復の促進のための栄養と食事について理解する。			
回数	教育内容	講義方法	
1 回	1. 生命とは	講義 グループディスカッション	
	2. 細胞の構造と機能		
2 ～3 回	3. 代謝の基礎と構想・補酵素		
	1) 代謝と生体のエネルギー		
	2) 酵素の基礎知識		
	3) 補因子		
	4) ビタミン		
	5) 酵素の反応速度		
	6) 酵素障害		
4 ～7 回	4. 糖質の構造と機能		
	5. 糖質代謝		
	6. 脂質の構造と機能		
	7. 糖質代謝		
	8. タンパク質の構造と機能		
	9. タンパク質代謝		
8 回	10. 食事の消化と栄養素の吸収・代謝		
9 回	11. 体内のエネルギーバランス		
10 回	1)食品・体内のエネルギー 2) エネルギー代謝の測定 3) エネルギー消費		
11 回	12. 食事と食品 1) 栄養素と食事 2) 食品群とその分類 3) 食品表示 4) 食品の調理 5) 食事の変遷 6) 食事摂取基準		
12 回	13. 栄養ケア、マネジメント 1) 栄養ケア、マネジメントとは 2) 栄養スクリーニング 3) 栄養アセスメント 4) 栄養ケア計画		
13 回	14. ライフステージと栄養 1) 各期における		
14 回	15. 臨床栄養		
評価方法	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 医学書院		

	糖尿病治療のための食品交換表 日本糖尿病協会 文光堂 食品成分表 女子栄養大学		
備考			
自己学習時間	15 時間	学習内容	・テキストに目を通して事前に概要を把握し、関心を高めておく ・提示する課題がある場合は事前に準備して講義に臨む

分野	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度		履修年次	3
科目	27 社会福祉論		単位（時間）	2（30 時間）
講師名	非常勤講師		試験時間	45 分
学習目標				
6. 社会福祉の理念を理解する。				
7. 福祉に関する諸制度、施策、保障がどのように存在するか、時代とともに変化している視点から理解する。				
8. 地域における保健・医療・福祉の連携を理解する。				
回数	内容			講義方法
1 回	1 0. 社会福祉のイメージ			講義 90 分
2 回	1 1. 社会保障制度と社会福祉福基本的理念			講義 90 分
3 回	1 2. 社会福祉の法制度			講義 90 分
4 回	1 3. 現代社会の変化と社会保障			講義 90 分
5 回	1 4. 保健医療の動向			講義 90 分
6 回	1 5. 社会福祉の動向			講義 90 分
7 回	1 6. 医療保障制度の構造と体系			講義 90 分
8 回	1 7. 健康保険と国民健康保険			講義 90 分
9 回	1 8. 高齢者医療制度			講義 90 分
10 回	1 9. 介護保険制度の歴史/概要/課題と展望			講義 90 分
11 回	2 0. 年金保険制度/社会手当			講義 90 分
12 回	2 1. 公的扶助			講義 90 分
13 回	2 2. 社会福祉の分野とサービス			講義 90 分
14 回	2 3. 社会福祉実践と医療・看護			講義 90 分
15 回	2 4. 講義のまとめ・テスト			講義 45 分 試験 45 分
評価方法	筆記試験			
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度【3】 社会保障・社会福祉 医療書院			
参考書				
自己学習時間	15 時間	学習内容	・テキストに目を通して事前に概要を把握し、関心を高めておく ・提示する課題がある場合は事前に準備して講義に臨む	

分野	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度		履修年次	1
科目	28-1 関係法規 I		単位（時間）	1（15 時間）
講師名	非常勤講師		試験時間	45 分
学習目標				
3. わが国の保健医療福祉に関する諸制度の概要を理解する。				
回数	内容			講義方法
1 回	1. 法の概念			講義 90 分
2 回	2. 看護法			講義 90 分
3 回	3. 医事法			講義 90 分
4 回	4. 保健衛生法			講義 90 分
5 回	5. 薬務法			講義 90 分
6 回	6. 社会保険法			講義 90 分
7 回	7. 福祉法			講義 90 分
8 回	テスト			試験 45 分
評価方法	小テスト、筆記試験			
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度【4】 看護関係法令 医学書院			
参考書				
自己学習時間	30 時間	学習内容	・テキストに目を通して事前に概要を把握し、関心を高めておく ・提示する課題がある場合は事前に準備して講義に臨む	

分野	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度		履修年次	3
科目	28-2 関係法規Ⅱ		単位（時間）	1（15 時間）
講師名	非常勤講師		試験時間	45 分
学習目標				
1. 医療機関と医療従事者の職務、機能、役割を関係法令の視点から理解する。				
回数	内容			講義方法
1 回	1. 厚生労働行政のしくみ			講義 90 分
2 回	2. 保健師助産師看護師法/看護師の人材確保の促進に関する法律			講義 90 分
3 回	3. 医療・介護の提供体制/地域振興における看護の役割			講義 90 分
4 回	4. 事故時の医療/災害時の医療と対策			講義 90 分
5 回	5. 感染症に関する法令/環境衛生の法令			講義 90 分
6 回	6. 労働法と社会基盤整備			講義 90 分
7 回	7. 授業のまとめ/想定問題/事例問題演習			講義 90 分
8 回	テスト			試験 45 分
評価方法	小テスト、筆記試験			
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度【4】 看護関係法令 医学書院			
参考書				
自己学習時間	15 時間	学習内容	・テキストに目を通して事前に概要を把握し、関心を高めておく ・提示する課題がある場合は事前に準備して講義に臨む	

分野	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度	履修年次	3
科目	29 公衆衛生学	単位（時間）	2（30 時間）
講師名	非常勤講師	試験時間	45 分

学習目標

公衆衛生の基本理念を理解し、その概要・歴史について学ぶ。さらに現在の公衆衛生や社会保障のシステムや集団を見る疫学の概要も学ぶ。また対象別、場面別の公衆衛生活動の実際を理解する。

回数	教育内容	方法と留意点
1 回	1. 公衆衛生の理念 1) 公衆衛生の歴史 2) 健康の概念	
2 回	2. 地域保健医療システム 1) 保健医療行政 2) 医療供給体制 3) 医療資源	
3 回	3. 日本の社会保険制度および医療制度 1) 社会保険制度の体系と機能 2) 医療保険制度・介護保険制度	
4 回	4. 公衆衛生活動における疫学（1） 1) 集団の見方と健康指標	
5 回	5. 公衆衛生活動における疫学（2） 1) 統計・資料の活用方法	
6 回	6. 公衆衛生活動各論 1 母子・思春期保健 1) 子どもに関する施策 2) 地域母子保健対策 3) 育児支援 4) 児童虐待 5) 思春期保健	
7 回	7. 公衆衛生活動各論 2 成人・高齢者保健 1) 成人の健康問題の現状と課題 2) 成人保健対策	
8 回	8. 公衆衛生活動各論 3 精神保健・難病保健 1) 精神保健福祉の目的 2) 精神保健福祉システムと制度 3) 難病対策 4) 主な対象の特徴と地域での主な活動	
9 回	9. 公衆衛生活動各論 4 感染症対策 1) 主要感染症の現状 2) 感染症予防 3) 新たな感染症対策	
10 回	10. 公衆衛生活動各論 5 学校保健	

	1) 学校保健の概要 2) 養護教諭の役割	
11 回	11. 公衆衛生活動各論 6 産業保健 1) 労働衛生関係法令の概要 2) 職業性疾患の概要 3) 産業看護職の活動	
12 回	12. 公衆衛生活動各論 7 環境保健 1) 環境保健の概要 2) 食品保健 3) 大気環境 4) 廃棄物 5) 地球環境の問題 6) 水道 7) 居住環境	
13 回	13. 公衆衛生活動各論 8 これからの公衆衛生 1) 国際保健 2) 健康危機管理 3) 災害時における公衆衛生活動	
14 回	14. 公衆衛生活動各論 9 ヘルスプロモーション 1) 健康教育とヘルスプロモーションの定義 2) ヘルスプロモーションのすすめ方 3) 具体例	
15 回	講義まとめ・筆記試験（レポート形式）	
評価方法	筆記試験（最終レポート）、課題への取り組み	
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度【2】 公衆衛生 医学書院	
参考書		
自己学習時間	15 時間	学習内容 ・テキストに目を通して事前に概要を把握し、関心を高めておく ・提示する課題がある場合は事前に準備して講義に臨む

分野	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度		履修年次	1
科目	30 保健医療論（へき地医療）		単位（時間）	1（15 時間）
講師名	非常勤講師		試験時間	45 分
学習目標				
3. 医療に対する社会の期待を理解する				
4. 医療を発展させる基盤になる倫理、経済を理解する				
5. 地域医療の歴史と課題、将来像について理解を深める				
回数	内容			講義方法
1 回	1. 医療と看護の原点 1) いのちと健康 ①生命現象と死 ②健康とは 2) 病の体験 3) 癒しの行為と癒しの知 4) 医療的ケアの管理			講義
2 回	2. 医療のあゆみと医療観の変遷 1) 現代医学の起源 2) 20 世紀の医療 3) わが国の医療がたどってきた道 4) 医療観のうつりかわり			講義
3 回	3. 保健・医療・介護—切れ目のないサポートの実現			講義
4 回	4. へき地医療の実際① 現状や課題（地域包括ケア、ICT 活用、災害時対応）			講義
5 回	5. へき地医療論の実際② 最新の政策（地域医療構想、医師偏在対策）			講義
6 回	6. へき地医療の実際③ へき地医療に関連する ICT（遠隔医療）や災害医療			講義
7 回	7. へき地医療の実際 ④ 地域医療の将来像を考える			講義
8 回	8. テスト			
評価方法	レポート、課題への取り組み			
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度【1】 医療概論 医学書院			
参考書				
自己学習時間	30 時間	学習内容	・テキストに目を通して事前に概要を把握し、関心を高めておく ・提示する課題がある場合は事前に準備して講義に臨む	

分野	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度	履修年次	1		
科目	31 家族支援論	単位（時間）	1（15 時間）		
講師名	非常勤講師	試験時間	45 分		
学習目標					
1. 看護の対象としての家族を 1 つの単位としてとらえ、特性を理解する。					
2. 健康な家族の在り方を理解する。					
3. 家族が自らの健康問題を主体的に解決していくために必要な理論と社会資源の活用を理解する。					
回数	教育内容	講義方法			
1 回	1. 授業オリエンテーション	講義・グループワーク 事例検討			
2 回	2. 家族とは（定義等）				
3 回	3. 日本の家族の動向 1) 家族支援の意義、諸理論				
4 回	4. 家族の役割と権威構造 1) 自己覚知、家族支援について VTR 視聴				
5 回	5. 家族に関する諸理論を理解しよう 1) 家族の機能 2) 家族の役割と権威構造 3) システムとしての家族 4) 家族のライフサイクル 5) 家族のコミュニケーション 6) 家族と危機				
6 回	6. 家族の生活、家族の健康とは何だろう 1) 集団としての家族 2) 個人と家族の生活 3) 家族の健康				
	7. 共感のスキル演習				
	8. 家族に関する情報収集とアセスメントの方法 1) ジェノグラム、エコマップの活用 2) 情報収集とアセスメント				
	9. 家族の援助計画 1) 家族の援助計画の特徴 2) 家族の援助の実際 3) 看護の評価・修正				
7 回	10. チームアプローチ演習 11. 家族が高齢者を介護している 1) 介護必要な高齢者 2) 家族にとっての問題				
8 回	テスト				
評価方法	筆記試験 レポート				
教科書	家族看護学 中央法規出版会				
備考					
自己学習時間	30 時間	学習内容	・テキストに目を通して事前に概要を把握し、関心を高めておく ・提示する課題がある場合は事前に準備して講義に臨む		

分野	専門分野 基礎看護学	履修年次	1
科目	32 看護学原論	単位 (時間)	1 (30)
講師名	看護師 * この科目は実務経験のある教員による授業科目です	試験時間	45分
学習目標 1. 看護の本質を理解し看護の概念を理解する。 2. 看護の対象としての人間を身体的・精神的・社会的統合体として理解する。 3. 人間にとっての健康の意義について理解する。 4. 保健医療福祉チームにおける看護の役割を理解し看護活動のあり方を理解する。 5. 看護の歴史と変遷を通して、現在の看護の位置づけと諸問題を理解する。			
回数	内容	講義方法	
1回 2回	1. 看護とは 1) 看護の本質 (1) 看護の変遷 (2) 看護の定義 2) 看護の概念 (1) 看護を構成する主要概念 人間、健康、環境(社会)、看護 3) 看護の役割と機能 (1) 看護ケア (2) 看護実践と質の保証 (3) 看護理論家の看護概念	アクティブラーニング 講義 グループワーク	
3回 4回	2. 看護の対象理解 1) 人間のこころからだ 人間の欲求(ニード) 2) 個人の理解 (1) 生涯発達ごとの個人の理解 (2) 健康状態ごとの個人の理解 (3) 生活と療養の場ごとの個人の理解 3) 集団の理解 (1) 家族という集団 (2) 地域社会という集団	講義	
5回 6回	3. 人間にとっての健康 1) 健康とは (1) 健康の定義 (2) 日本の健康状態、健康意識 2) ライスサイクルと健康	講義	
7回 8回	4. 看護の役割 1) 職業としての看護 (1) 看護職の資格・養成制度・就業状況 (2) 継続教育とキャリア開発 (3) 看護職の養成制度の未来と課題	講義 グループワーク	

9 回 10 回	5. 看護における倫理 1) 職業倫理と看護倫理 2) 看護の対象者の意思決定と守秘義務 3) 専門職の倫理規定 倫理綱領 4) 倫理的ジレンマ	講義 グループワーク
11 回	6. チーム医療における看護の提供のしくみ 1) サービスとしての看護 2) 看護提供の場とチーム医療 3) 看護をめぐる制度 4) 医療安全と医療の質の保証	講義 グループワーク
12 回 13 回	7. 看護の実践 1) 看護技術の基本原則 2) 看護技術の特徴 3) 看護技術の範囲 4) 看護技術を適切に実践するための要素	講義 グループワーク
14 回	8. 広がる看護活動領域 1) 国際化と看護 2) 災害時の看護	講義 グループワーク
15 回	まとめ/終講試験	
評価方法	筆記試験 70% レポート 20% グループ発表 10%	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【1】 看護学概論 医学書院 系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院	
参考文献	看護がみえる Vol.5 対象の理解 I メディックメディア 国民衛生の動向 2024/2025 厚生統計協会	

自己学習時間

講義以外の学習時間	15 時間	事前・事後学習内容	レポート・発表資料に取り組む
-----------	-------	-----------	----------------

分野	専門分野 基礎看護学	履修年次	1
科目	33 看護倫理	単位（時間）	1（15）
講師名	非常勤講師・看護師	試験時間	45分

学習目標

1. 看護者としての職業倫理を理解できる。
2. より良い看護の実現に向けた倫理的問題の分析および倫理的意思決定の方法を理解できる

回	教育内容	講義方法
1回	1. 看護倫理の基礎知識 1) 看護倫理とは	講義
2回 3回	2. 専門職の倫理 1) 専門職に求められる 2) 専門職の倫理綱領 3) 看護業務基準と倫理 4) 保健師助産師看護師法と倫理	講義 演習
4回 5回	3. 倫理的課題へのアプローチ 1) 倫理的課題へのアプローチ 2) ツールを用いたアプローチ	講義 演習
6回 7回	4. 看護研究の倫理 1) 看護職と研究倫理 2) 研究における倫理的課題 3) 研究における倫理的配慮 4) 看護研究に必要な倫理的配慮	講義 演習
8回	まとめ・終講試験	
評価方法	筆記試験、課題	
テキスト	系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院 看護者の倫理綱領 日本看護協会	
参考文献	看護がみえる Vol.5 対象の理解 I メディックメディア	

自己学習時間

講義以外の学習時間	15 時間	事前・事後学習内容	レポート・発表資料に取り組む
-----------	-------	-----------	----------------

分野	専門分野 基礎看護学	履修年次	1
科目	34 共通基本技術 I	単位 (時間)	1 (30)
講師名	非常勤講師・看護師	試験時間	4 5 分
学習目標 1. 看護における人間関係を理解し、効果的なコミュニケーションの基礎的技術を習得する。 2. 看護活動における基本的技術を理解する。			
回	教育内容	講義方法	
1 回	1. ガイダンス 1) 自己のコミュニケーションスキル 2) 挨拶、自己紹介 (1) 挨拶と自己紹介のマナー、注意点	講義 演習	
2 回	2. 正しい日本語を使う 1) 正しい日本語 (1) わかりやすい話し方 2) 敬語や謙譲語 (1) 敬語を使う (2) コミュニケーションを円滑にする言葉	講義 演習	
3 回	3. 話すスキルと聴くスキル 1) まとまった内容をわかりやすく伝える話し方 2) 傾聴のスキル 3) メモをとる (1) メモの取り方の見直し (2) メモの内容をわかりやすく伝える方法	講義 演習	
4 回	4. 表現法 1) 相手の気持ちを考えながら自己主張する 上手に断る ①アサーティブ表現法 ②DESC 法	講義 演習	
5 回	5. 共同学習の様々な技法 1) 意見を出し合う ①ブレインストーミング ②KJ 法	講義 演習	
6 回	6. 説明する 発表する 1) 相手の立場に立った伝え方 2) 感情をコントロールするスキル ① 自分の様々な感情を自覚 ② 個人が他者に与える影響	講義 演習	
7 回	7. 看護におけるコミュニケーションの意義と方法	講義	

8 回	1) コミュニケーションの意義と目的 2) コミュニケーションの構成要素（カウンセリングを含む） 3) コミュニケーションのプロセスと影響する因子 4) ケアリングとコミュニケーション 5) 関係構築のためのコミュニケーションの基本	演習
9 回	8. 効果的なコミュニケーションの実際 1) 傾聴の技術 2) 情報収集の技術 3) 説明の技術 4) アサーティブネス	講義 演習
10 回	9. コミュニケーション障害への対応 1) コミュニケーションに障害のある人の特徴 2) 言語的コミュニケーションに必要な身体機能 3) コミュニケーション障害がある人への対応	講義 演習
11 回	10. オンラインコミュニケーション 1) オンラインコミュニケーションの機会の増加 2) オンラインコミュニケーションのポイント	講義 演習
12 回 13 回 14 回	11. 記録・報告 1) 看護記録とは (1) 看護記録の法的位置づけ (2) 看護記録の規定 (3) 看護記録の目的と機能 (4) 看護記録の電子化 2) 記録・管理における留意点 (1) 看護記録の記載基準 (2) 記録の管理と守秘義務 (3) 看護記録の訂正 (4) 看護学生の臨地実習における記録の記載 3) 看護記録の構成 (1) 基礎情報 (2) 看護計画 (3) 経過記録 (4) 看護サマリー 4) 看護における報告 (1) 看護における報告の意義 (2) 報告方法	講義 演習
15 回	まとめ／終講試験	
評価方法	筆記試験 60% レポート 10% グループ発表 30%	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【2】【3】 看護学概論 医学書院 看護系学生のための日本語表現トレーニング 三省堂	
参考文献	看護がみえる Vol. 5 対象の理解 I メディックメディア	

自己学習時間

講義以外の学習時間	15 時間	事前・事後学習内容	レポート・発表資料に取り組む
-----------	-------	-----------	----------------

分野	専門分野 基礎看護学	履修年次	1
科目	35 共通基本技術Ⅱ	単位 (時間)	1 (30)
講師名	看護師＊この科目は実務経験のある教員による授業科目です	試験時間	45分
学習目標 1. 感染予防および感染予防における看護師の役割を理解する。 2. 感染予防に必要な基礎的看護技術を習得する。 3. 看護活動における基本的技術を理解する。			
回	教育内容	講義方法	
1回	1. 感染とその予防の基礎知識 1) 感染と感染症 2) 感染成立の条件 3) 感染予防 4) 院内感染の成立	講義	
2回 3回	2. 標準予防策 1) 標準予防策の基礎知識 2) 対策の実際 (1) 手指衛生 (2) 個人防護具 (PPE) (3) 患者ケアに使用した器具 (4) 環境対策 (5) リネン (6) 鋭利なものの取り扱い (7) 患者の蘇生など救急時の対応 (8) 患者配置 (9) 呼吸器衛生／咳エチケット (10) その他	講義 演習 ＊技術チェック	
4回 5回	3. 感染経路別予防策 1) 感染経路別予防策の基礎知識 2) 接触予防策 3) 飛沫予防策 4) 空気予防策	講義 演習	
6回	4. 洗浄・消毒・滅菌 1) 洗浄・消毒・滅菌の基礎知識 2) 洗浄 3) 消毒と滅菌	講義	
7回 8回	5. 無菌操作 1) 無菌操作の基本知識 2) 対策の実際	講義 演習	
9回	6. 針刺し防止策	講義	

	1) 針刺し防止の基礎知識 2) 対策の実際	
10 回 11 回	7. 医療施設における感染管理 1) 感染管理のための組織と業務 2) 感染症発生時の対応	講義 演習
12 回	8. 安全確保の基礎知識 1) 誤薬防止 2) チューブ類の事故防止 3) 患者誤認防止	講義
13 回	9. 転倒・転落防止 1) 転倒・転落防止の基礎知識 2) 転倒・転落防止の実際	講義
14 回	10. 薬剤・放射線暴露の防止 1) 抗がん薬暴露の防止 2) 放射線暴露の防止	講義
15 回	まとめ／終講試験／技術チェック	
評価方法	筆記試験 60% レポート（課題）10% 技術チェック 30%	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【2】医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院	
参考文献	看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 メディックメディア	

自己学習時間

講義以外の学習時間	15 時間	事前・事後学習内容	DVD 学習、技術演習
-----------	-------	-----------	-------------

分野	専門分野 基礎看護学	履修年次	1
科目	36 日常生活の援助技術Ⅰ（環境）	単位 （時間）	1（30）
講師名	看護師＊この科目は実務経験のある教員による授業科目です	試験時間	45分
学習目標			
1. 病床環境がどのようなものか理解できる。			
2. 対象の状態に応じた病床の環境整備を行うことができる。			
3. ベッドメイキング、臥床患者のシーツ交換の看護技術を習得する。			
回数	教育内容	講義方法	
1回	1. 療養生活の環境 1) 人間の健康と環境 （1）環境の意義	講義	
2回	2) 生活環境の調整 （1）人と環境 （2）療養生活と環境 （3）生活環境の調整	講義	
3回 4階	2. 病室環境 1) 病室の構成 2) 病床の環境 3) 療養環境のアセスメント	講義 アクティブラーニング	
5回 6回	3. 環境整備の援助の実際 1) 病床の環境整備	講義・演習	
7回 8回 9回	2) ベッドメイキング （1）ベッドメイキングとは（2）リネン類の取り扱い （3）ベッドメイキングの実際	講義・演習	
10回 11回	3) 臥床患者のシーツ交換 （1）臥床患者リネン交換とは （2）臥床患者リネン交換の実際	講義・演習	
12回	4) ベッド周囲の環境整備 （1）対象の状態に応じた環境整備 環境のアセスメントと援助の実際	講義・演習	
13、14回	ベッドメイキング技術チェック	技術チェック	
15回	まとめ・終講試験		
評価方法	筆記試験 70% 技術チェック 30%		
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 メディックメディア		
備考			

自己学習時間

講義以外の学習時間	15時間	事前・事後学習内容	DVD 学習、技術演習
-----------	------	-----------	-------------

分野	専門分野 基礎看護学	履修年次	1
科目	37 日常生活の援助技術Ⅱ（食事・排泄）	単位（時間）	1（30）
講師名	看護師＊この科目は実務経験のある教員による授業科目です	試験時間	45分

学習目標

1. 食事の意義、意味を理解し、食生活を整えるために必要な看護技術を習得する。
2. 排泄の意義を理解し、排泄機能障害・排泄行動の自立度に応じた看護技術を習得する。

回数	教育内容	講義方法
1回	1. 食事・排泄の意義、メカニズム	講義
2回	2. 食事援助の基礎知識 1) 栄養状態及び摂食能力、食欲や食に対する認識のアセスメント 2) 医療施設で提供される食事の種類と形態	講義
3回	3. 食事摂取の介助 1) 援助の基礎知識	講義
4、5回	2) 援助の実際	演習
6回	4. 非経口的栄養摂取の援助 1) 経管栄養法 2) 中心静脈栄養法	講義
7回	5. 排泄に関連したアセスメント 1) 患者の状態に応じた援助の決定 2) 排尿、排便のアセスメント 3) 移動動作のアセスメント 4) 心理・社会的状態のアセスメント	講義
8回	6. 自然排泄の介助の基礎知識 1) トイレにおける排泄介助 2) 床上排泄援助 3) おむつによる排泄援助 4) 陰部洗浄	講義
9、10回	7. 自然排泄の介助の実際	演習
11回	8. 排泄を促す援助の基礎知識 1) 排尿、排便を促す援助の基礎知識 2) 一時的導尿 3) 浣腸 4) 摘便	講義
12回 13回	9. 排泄を促す援助の実際 1) 一時的導尿 2) グリセリン浣腸	演習
14回	3) 持続的導尿 4) 摘便	講義
15回	まとめ／終講試験	
評価方法	筆記試験 60% レポート 40%	
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 メディックメディア	
備考		

自己学習時間

講義以外の学習時間	15時間	事前・事後学習内容	DVD 学習、技術演習
-----------	------	-----------	-------------

分野	専門分野 基礎看護学	履修年次	1
科目	38 日常生活の援助技術Ⅲ (姿勢と体位、睡眠・休息)	単位 (時間)	1 (30)
講師名	看護師 *この科目は実務経験のある教員による授業科目です	試験時間	45分

学習目標

1. 姿勢と看護場面における効率的動作について理解し、安全・安楽な体位の移動と変換の看護技術を習得する。
2. 活動と休息の意義と重要性を理解し、活動を促すおよび睡眠・休息を整えるために必要な看護技術を習得する。

回数	教育内容	講義方法
1回	1. 姿勢と動作 1) 姿勢 2) 体位と肢位 ・体位 ・肢位	講義
2回 3回 4回	2. 動作 3. ボディメカニックスの原則と実際 1) ボディメカニックスの原則と実際 2) ボディメカニックスにかかる基礎知識 (1) 姿勢や動作の安定性 (2) 看護に役立つ物理法則 (3) 作業域と作業姿勢 3) 良い姿勢・動作のためのボディメカニックス	講義 演習
5～9回	4. 基本的活動の援助の実際 1) 体位交換 2) 歩行の援助 3) 移乗・移送	講義 演習
10回	5. 運動機能維持・拡大に向けた援助 1) 自動・他動運動 2) ROM	講義 演習
11回 12回	6. 睡眠・休息の援助 1) 援助の基礎知識 2) 睡眠休息の援助	講義・アクティ ブラーニング
13回 14回	7. 安楽確保の技術 1) 体位保持 (ポジショニング) 2) 身体ケアを通じてもたらされる安楽 (1) 電法 (2) 熱布パックケア 3) 安楽を促進するケア (1) リラクゼーション法	講義 演習
15回	まとめ／終講試験／技術チェック	
評価方法	筆記試験 60% レポート (課題) 10% 技術チェック 30% 【シート交換】	
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア	
備考		

自己学習時間

講義以外の学習時間	15 時間	事前・事後学習内容	DVD 学習、技術演習
-----------	-------	-----------	-------------

分野	専門分野 基礎看護学	履修年次	1
科目	39 日常生活の援助技術Ⅳ（清潔・衣生活）	単位（時間）	1（30）
講師名	看護師＊この科目は実務経験のある教員による授業科目です	試験時間	4 5 分
学習目標			
1. 清潔および衣生活の意義を理解する。			
2. 清潔援助の方法や衣生活の援助技術について習得する。			
回数	教育内容	方法と留意点	
1 回	1. 清潔の意義 2. 衣生活の基礎知識 1) 衣生活の意義 2) 体温調節と衣服	講義	
2 回	3. 衣生活の援助の実際 1) 病衣の選び方 2) 寝衣の交換	講義	
3 回	4. 清潔援助の基礎知識 1) 清潔援助の効果 2) 患者の状態に応じた援助の決定 5. 清潔を整える看護技術 1) 入浴・シャワー浴	講義	
4 回	2) 全身清拭 基礎知識	講義	
5～6 回	3) 全身清拭・寝衣交換の実際	演習	
7 回	4) 洗髪の基礎知識 5) 口腔ケアの基礎知識	講義	
8 回	6) 手浴、足浴の基礎知識	演習	
9 回	7) 洗髪、口腔ケアの実際	講義	
10～11 回	8) 洗髪、手浴、足浴の実際	演習	
12 回	6. 整容	講義	
13～14 回	技術チェック 清拭、寝衣交換	技術チェック	
15 回	まとめ／終講試験		
評価方法	筆記試験 60% レポート 10% 実技 30%		
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア		
備考			

自己学習時間

講義以外の学習時間	15 時間	事前・事後学習内容	DVD 学習、技術演習
-----------	-------	-----------	-------------

分野	専門分野 基礎看護学	履修年次	1
科目	40 ヘルスアセスメント	単位（時間）	1（30）
講師名	看護師＊この科目は実務経験のある教員による授業科目です	試験時間	45分

学習目標

1. 全身状態を系統的に把握するためのヘルスアセスメントの意義・目的およびその方法について理解する。
2. バイタルサインの基礎的知識を理解し、その測定技術を習得する。
3. フィジカルアセスメントに必要な看護技術を習得する。
4. フィジカルアセスメントで収集した情報から必要な看護を導き出すことができる。

回数	教育内容	講義方法
1回	1. 看護におけるヘルスアセスメントの考え方 1) ヘルスアセスメントとは 2) アセスメントのプロセス	講義
2回	2. 健康歴とセルフケア能力のアセスメント 1) 問診の技術 2) ヘルスストーリー	講義
3回 4回	3. 全体の概観 1) フィジカルアセスメントに必要な技術 2) 全身状態・全体印象の把握 3) バイタルサインの観察とアセスメント 4) 計測	講義
5回 6回	4. フィジカルアセスメントに必要な技術 1) バイタルサイン 2) 計測 3) パルスオキシメーター	演習 ＊技術チェック
7回	5. 系統別フィジカルアセスメント 1) フィジカルアセスメントの特徴 2) 呼吸器	講義・演習
8回	3) 循環器	講義・演習
9回	4) 乳房、腋窩 5) 腹部（消化器）	講義・演習
10回	6) 筋・骨格 7) 神経系	講義・演習
11回	8) 頭頸部と感覚器 9) 外皮系	講義・演習
12～13回	6. 心理・社会状態のアセスメント	講義
14回	技術 バイタルサイン	技術チェック
15回	まとめ／終講試験	
評価方法	筆記試験 60% 課題 10% 技術チェック 30%	
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【2】 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア	
備考		

自己学習時間

講義以外の学習時間	15 時間	事前・事後学習内容	DVD 学習、技術演習
-----------	-------	-----------	-------------

分野	専門分野 基礎看護学	履修年次	2
科目	41 看護の展開方法	単位（時間）	1（30）
講師名	看護師＊この科目は実務経験のある教員による授業科目です	試験時間	45分
学習目標 1. 看護実践における看護過程の意義、目的を理解する。 2. 看護過程の構成要素を理解する。 3. 様々な対象をとらえる過程を理解する。 3. 系統的で意図的な思考過程としての看護の展開方法を理解する。 4. 事例の演習を通して、臨床判断過程を身につける。			
回数	教育内容	講義方法	
1回	1. 看護過程の基本となる考え方 1) 看護過程とは何か (1) 看護過程の構成要素 (2) 構成要素の関連性 (3) 看護過程の利点 2) 日常生活の中での看護過程 3) 看護過程の基盤となる考え方 (1) 問題解決過程 (2) クリティカルシンキング (3) 情報分析 (4) 倫理的配慮と価値判断 (5) リフレクション 4) 臨床判断モデル	講義	
2回	2. 対象の捉え方 1) 人が生きる上での「健康と健康障害」 2) 対象を捉えるアセスメントの枠組み	講義	
3回	3. 情報源と情報の種類 1) 主観的情報と客観的情報 2) データ収集方法 3) 情報の分類と整理 (1) アセスメントの過程とアセスメントの視点 (2) アセスメントの枠組みに沿った情報	講義 演習	
4回 5回	4. 情報分析方法 1) 情報の分類と整理 2) 情報の意味・解釈 3) 統合	講義 演習	
6回 7回	5. 関連図とは、関連図の役割、種類 書き方	講義 演習	
8回 9回	6. 看護診断 1) 看護診断名	講義 演習	

	2) 関連（リスク）因子 3) 症状徴候 7. 照合、看護診断の表記 8. 看護問題と共同問題 9. 優先順位の考え	
10 回 11 回	10. 看護目標と成果 1) 看護目標 2) OUTCOME 11. 看護計画立案のプロセス 1) 具体的方法 2) 実施上の留意点（安全、安楽、自立） 3) 倫理的配慮 12. 標準看護計画 13. クリティカルパス	講義 演習
12 回 13 回 14 回	14. 実施 1) 実施上の留意点（安全、安楽、自立） 2) 倫理的配慮（説明と同意、プライバシー） 15. 評価 1) 評価の視点および時期 2) 看護計画の修正 3) リフレクション	講義 演習
15 回	まとめ	
評価方法	課題 100%	
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【2】 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 NANDA - I 看護診断 定義と分類 医学書院 看護過程に沿った対症看護 -病態生理と看護のポイント- 学研	
備考	シミュレーション学習を含む 看護診断の改正により教科書の変更があります。	

自己学習時間

講義以外の学習時間	15 時間	事前・事後学習内容	テキストで事前・事後学習を行う
-----------	-------	-----------	-----------------

分野	専門分野 基礎看護学	履修年次	1
科目	42 診療に伴う技術Ⅰ	単位（時間）	1（30）
講師名	看護師 * この科目は実務経験のある教員による授業科目です	試験時間	45分

学習目標

1. 呼吸を整えるための援助方法について理解し、安全かつ正確な技術を習得する。
2. 創傷・褥瘡の予防的援助、治療的援助方法について理解し、皮膚・粘膜の保護に必要な技術を修得する。
3. 苦痛緩和・安楽確保のための援助について理解し、その援助技術を習得する。
4. 与薬の意義、目的、種類を理解し、与薬を受ける患者への安全な看護技術を習得する。

回数	教育内容	講義方法
1回 2回 3回 4回	1. 呼吸・循環を整える技術 1) 気道の管理 (1) 気道管理の基礎知識 (2) 気道管理の援助の実際 ・ 安楽な呼吸法 ・ 体位ドレナージ ・ 咳嗽介助、ハフティング ・ 吸入 ・ 吸引 2) 酸素療法 3) 人工呼吸療法 4) 体温管理 5) 循環促進ケア	講義 演習
5回 6回 7回	4. 創傷管理技術 1) 創傷管理の基礎知識 2) 創傷処置 (1) 術後一縫合創とドレーン創の処置 (2) 創洗浄と創保護 (3) テープによる皮膚障害 (4) 包帯法 3) 褥瘡予防	講義 演習
8回 9回 10回 11回 12回 13回	5. 与薬の技術 1) 与薬の基礎知識 (1) 薬物の基本的性質 (2) 看護師の役割 2) 経口与薬・口腔内与薬 (1) 援助の基礎知識	講義 演習

14 回	(2) 援助の実際 3) 吸入 (1) 援助の基礎知識 (2) 援助の実際 4) 点眼・点入 (1) 援助の基礎知識 (2) 援助の実際 5) 点鼻 (1) 援助の基礎知識 (2) 援助の実際 6) 経皮的与薬 (1) 援助の基礎知識 (2) 援助の実際 7) 直腸内与薬 (1) 援助の基礎知識 (2) 援助の実際 8) 注射 (1) 援助の基礎知識 (2) 援助の実施法 ・皮下注射 ・皮内注射 ・筋肉内注射 ・静脈内注射 9) 輸血管理	
15 回	まとめ／終講試験	
評価方法	筆記試験 90% 課題学習 10%	
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 メディックメディア 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 メディックメディア	
備考		

自己学習時間

講義以外の学習時間	15 時間	事前・事後学習内容	DVD 学習、技術演習
-----------	-------	-----------	-------------

分野	専門分野 基礎看護学	履修年次	1
科目	43 診療に伴う技術Ⅱ	単位（時間）	1（30）
講師名	看護師 * この科目は実務経験のある教員による授業科目です	試験時間	45分

学習目標

1. 検査・治療の意義・目的を理解し、看護師の役割を理解する。
2. 検査・処置を受ける患者への看護技術を習得する。
3. 苦痛緩和・安楽確保のための援助について理解し、その援助技術を習得する。

回数	教育内容	方法と留意点
1, 2回	1. 診察、検査の介助 2. 検体検査 1) 検体検査の基礎知識 2) 血液検査 3) 尿検査 4) 便検査 5) 喀痰検査	講義
3回	3. 生体情報モニタリング 1) 心電図モニター 2) 血管内留置カテーテルモニターを使用したモニタリング	講義
4, 5回	4. 検査・処置の介助 1) X線検査 2) CT 3) MRI 4) 内視鏡検査 5) 超音波検査 6) 心電図検査 7) 肺機能検査 8) 核医学検査 9) 穿刺	講義
6, 7回	5. 静脈血採血の基礎知識	講義
8～12回	6. 静脈血採血の実際	演習
13～14回	10. 総合技術 1) 静脈内採血	技術試験
14, 15回	まとめ／終講試験	
評価方法	筆記試験 100% 実技 100%	
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 メディックメディア	
備考		

自己学習時間

講義以外の学習時間	15時間	事前・事後学習内容	DVD 学習、技術演習
-----------	------	-----------	-------------

分野	専門分野 基礎看護学	履修年次	1
科目	44 看護研究	単位（時間）	1（15）
講師名	看護師	試験時間	45分

学習目標

1. 看護研究の意義とプロセスを理解する。
2. 文献検索の方法を理解する。

回数	教育内容	講義方法
1回 2回	1. 看護研究の意義・必要性・重要性 2. 研究の条件 1) EBNとは 2) 研究疑問とは 3. 看護理論と看護研究 4. 看護研究における倫理的配慮	講義
3回 4回	5. 研究の種類と研究の方法 1) 研究デザイン 6. 研究過程 7. 研究計画書の必要性和書き方 8. 研究論文の種類と構成 9. 抄録の作成と発表方法	講義
5回	10. 文献検索の意義・文献の探索法 1) 文献の読み方、整理の仕方	演習
6回	11. 文献検討の実際 1) 文献検討 (1) 研究計画書	講義 演習
7回	12. 研究クリティークと研究成果の活用 1) 論文の読み方 (1) 論文の構成 (2) クリティーク 2) クリティークの実際	講義 演習
8回	まとめ	演習
評価方法	課題 100%	
教科書	系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院	
備考	埼玉県看護学生研究発表会集録	

自己学習時間

講義以外の学習時間	10 [時間]	事前・事後学習内容	テキスト、文献で事前・事後学習を行う 課題に取り組む
-----------	---------	-----------	-------------------------------

分野	専門分野 基礎看護学	履修年次	1
科目	45. 看護研究演習	単位（時間）	1（15）
講師名	看護師	試験時間	45分

学習目標

1. 看護研究の知識を活用し、ケーススタディレポートをまとめることができる。

回数	教育内容	講義方法
1回 2回	1. ケーススタディとは 1) 演習の進め方 2) 研究テーマの絞り込み 3) 研究計画書と文献検索	講義 演習
3回	2. 研究計画書の作成	
4～6回	2. 論文作成、抄録作成 1) ケーススタディレポート (1) はじめに、目的、研究方法 (2) 看護の実際 (3) 考察、結論、まとめ	講義 演習
7回	3. 効果的プレゼンテーション 1) 口演発表について (1) 発表原稿・スライド (2) ポスターセッション (3) 分かりやすいプレゼン	演習
8回	4. 発表の実際、まとめ 1) 発表会 2) 講評 3) 研究発表会参加 4) 振り返り（論文の追加・修正） 5. まとめ	演習
評価方法	課題 100%	
教科書	系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院	
備考	埼玉県看護学生研究発表会集録	

自己学習時間

講義以外の学習時間	10 時間	事前・事後学習内容	テキスト、文献で事前・事後学習を行う 課題に取り組む
-----------	-------	-----------	-------------------------------

分野	専門分野 臨地実習	履修年次	1
科目	78 基礎看護学実習Ⅰ（日常生活の援助）	単位（時間）	1（40）
講師名	看護師	試験時間	
学習目標			
1. 療養の場における対象を生活者として捉え、対象に合わせた日常生活の援助が実施できる。			
	実習目標及び内容		
	1) 対象の生活の場としての療養環境について知ることができる。 (1) 看護サービスの提供の場の病院と看護について記述(説明)できる (2) 看護サービスに提供の場を担う職種について記述(説明)できる (3) 対象が生活している療養環境を知ることができる。 (4) 対象の療養環境調整の必要性について考えることができる 2) 療養の場における対象を生活者として捉えることができる。 (1) 対象に合わせた言葉づかい・身だしなみ・態度で関わるすることができる。 (2) 対象の訴えをありのまま聴くことができる。 (3) 言語的・非言語メッセージを知ることができる。 (4) 対象の反応を確認し、コミュニケーションを図ることができる。 (5) 対象の身体的・心理的・社会的側面を把握するための情報収集ができる。 3) 対象の状況に応じた日常生活援助が実施できる。 (1) 対象の状況に応じた援助の必要性を記述(説明)できる。 (2) 対象に必要な援助を計画することができる。 (3) 援助前の対象の状態を観察し、立案した計画が実施可能か判断することができる。 (4) 立案した計画に基づき、対象の反応を確かめながら援助が実施できる。 (5) 安全を守り、安楽・自立に配慮した援助が実施できる。 (6) 援助の根拠、計画、実施の過程を振り返ることができる (7) 状況に応じて報告・連絡・相談することができる。 4) 保健医療福祉チームの一員として、看護者に求められる基本的姿勢を身につける。 (1) 感染予防策が実施できる。 (2) 時間管理をし、責任を持った行動がとれる。 (3) よりよい看護を実践するために、主体的に学習に取り組むことができる (4) チームの一員として適切な人間関係をもつことができる。		
評価方法	評価表による評価		

分野	専門分野 臨地実習	履修年次	2
科目	79 基礎看護学実習Ⅱ（看護の展開方法）	単位（時間）	1（80）
講師名	看護師	試験時間	
学習目標 1. 患者への看護援助の実践を通して対象を総合的に理解し、看護過程の展開ができる基礎的能力を養う。			
	実習目標及び内容		
	1) 受け持ち患者への看護実践に看護過程の展開技術を適応し、問題解決技法の基礎を理解する。 (1) 患者の看護に必要な情報収集ができる (2) コミュニケーションスキルを活用し、看護に必要な情報を収集できる (3) アセスメントツールを活用し、情報の整理ができる。 (4) 各領域の示す健康指標の合わせた情報の解釈・分析ができる。 (5) 情報を関連させながら逸脱している（健康時の基準値）誘因・原因を推測することができる。 (6) 患者の反応の解釈・分析から全体像を用いて統合できる。 (7) 対象の望ましい状態を考え、看護問題を抽出できる (8) 対象の状態にあわせた優先順位の決定ができる (9) 対象の看護問題を解決するための具体的な目標が設定できる (10) 対象の個別性や強みを生かした具体的な立案ができる (11) 対象の安全・安楽を考慮した方法で実施ができる (12) 対象の反応をとらえ、コミュニケーションを図りながら実施できる (13) 実施した内容を踏まえ正確に要点を整理して報告できる (14) 実施した看護援助の評価ができる (15) 立案した看護計画の評価ができる 2) 保健医療福祉チームの一員として看護者に求められる基本的姿勢を身につける (1) 感染予防対策が実施できる (2) 自己の健康管理ができる (3) 自分の役割を自覚し、責任を持った行動がとれる。 (4) よりよい看護を実践するために、主体的に学習する姿勢がある。 (5) チームの一員として適切な人間関係をもつことができる。		
評価方法	評価表による評価		

分野	専門分野 地域・在宅看護論	履修年次	1
科目	46 暮らしを支える看護	単位（時間）	1（15 時間）
講師名	看護師	試験時間	4 5 分
学習目標			
1. 人々の暮らしを理解する。			
2. 地域・在宅看護の役割を理解する。			
3. 自らの健康を維持できる継続的に暮らしを支える看護を理解する。			
回数	内容	講義方法	
1 回目	1. 人々の暮らしの理解 1) 暮らしとは （1） 暮らしを構成するもの （2） 1人ひとり異なる暮らし	講義 アクティブラーニング	
2 回目	2) 暮らしと健康との関係 （1） 暮らしのなかで生じる健康問題とその影響 （2） 家族の暮らしと健康	講義	
3 回目	3) 暮らしのなかで健康ととらえる （1） 健康の多様性 （2） 健康をとらえる看護の視点	講義	
4 回目	2. 地域・在宅看護の役割 1) 地域・在宅看護の実践の場 （1） 地域・在宅看護が実践される場所 （2） 地域・在宅看護の対象	講義 アクティブラーニング	
5 回目	2) 地域・在宅看護の実践 （1） 地域包括ケアシステムの活用 （2） 予防とヘルスリテラシーの向上	講義 アクティブラーニング	
6 回目	3) 地域・在宅看護に求められる役割 （1） 社会背景と地域・在宅看護 （2） 看護理論と地域・在宅看護	講義 アクティブラーニング	
7 回目	3. 暮らしを理解する 演習 1) 自分の暮らしを支えているもの	演習 フィールドワーク	
8 回目	4. まとめ ・終講試験		
評価方法	筆記試験 / 課題提出		
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論①医学書院		
参考書	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①② 看護がみえる vol.5 対象の理解 I		
自己学習時間	10 時間	自己学習内容	テキスト学習、課題に取り組む

分野	専門分野 地域・在宅看護論	履修年次	1
科目	47 地域理解と多職種連携	単位（時間）	1（15時間）
講師名	看護師	試験時間	課題レポート等
学習目標			
1. 地域に暮らす人々の健康ニーズと健康問題についてリサーチできる。			
2. 健康問題を解決するための取り組みがわかる			
3. 多職種の役割と責務について多職種と共有する			
4. 対象者の目標達成、ケアの質向上についてともに考えることができる			
回数	教育内容		講義方法
1、2回	1. 地域に暮らす人々の健康ニーズと健康問題 1) 地域診断モデル コミュニティ・アズ・パートナーモデル 2) 人々が暮らす地域の理解 3) 地域の人々の健康レベル 地域社会システムとしてのとらえ方		講義 演習
2～4回	2. 地域周辺の施設のリサーチ 1) 地域包括支援センター、行政 2) 病院、診療所 3) 介護老人福祉施設 4) 介護老人保健施設 5) 介護療養型医療施設 6) 特別養護老人ホーム 7) 通所介護 8) 通所リハビリテーション 9) 看護小規模多機能型居宅介護 等 3. 多職種間のコミュニケーション		講義 演習 グループワーク
5～7回	4. 地域住民の健康ニーズと健康問題と健康を守るための地域の取り組み（地域理解の実際） 地域住民・行政へフィールドワーク フィールドワーク計画・実施・発表		演習 フィールドワーク
8回	5. 多職種の役割と責務 課題学習をもとに 6. まとめ		
評価方法	地域リサーチ計画書、グループワーク参加度、レポート		
教科書	看護がみえる vol.5 対象の理解 I		
備考	系統看護学講座 地域・在宅看護論 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論 地域・在宅看護の実践 医学書院		

分野	専門分野 地域・在宅看護論	履修年次	1
科目	48 地域・在宅療養を支える看護	単位（時間）	1（15 時間）
講師名	看護師	試験時間	4 5 分
学習目標 1. 在宅看護の提供の場とそれぞれの特徴を理解する 2. 地域での療養生活に必要な継続看護と支援体制について理解する。 3. 地域で生活する療養者とその家族を支える社会資源について理解する 4. 在宅療養者とその家族を支える地域包括ケアシステムを理解する。			
回数	教育内容	講義方法	
1・2 回	1. 在宅療養を支える訪問看護 1) 訪問看護の特徴 ・訪問看護の制度 ・訪問看護における看護職の役割 2) 在宅ケアを支える訪問看護ステーション ・訪問看護ステーションの開設基準 ・対象者 ・訪問看護制度の課題	講義 演習	
3・4 回	2. 在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント 1) ケースマネジメント/ケアマネジメント 2) 介護保険制度におけるケアマネジメント 3) ケースマネジメント/ケアマネジメントの過程 4) 地域包括ケアと地域ケア会議 ・地域ケア会議の 5 つの機能 ・地域ケア会議の設置主体と関係職種	講義 演習	
5・6 回	3. 地域療養を支える法・制度 1) 社会資源の活用 2) 在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源 ・成年後見制度 3) 医療保険制度 4) 介護保険制度 ・介護予防サービス・介護サービスの給付手続き 5) 高齢者施策 ・認知症施策 ・高齢者虐待防止法 6) 障害者に関連する法律 ・障害者総合支援法 ・精神保健福祉法 ・障害者を支える手当・年金 7) 難病法 8) 子どもの在宅療養を支える制度と社会資源	講義 演習	

	9) 生活保護制度 演習：ライフステージに対応する主な法・制度	
7 回	4. 在宅療養を支える健康危機・災害対策 1) 在宅療養における健康危機・災害対策 2) 地域包括ケアシステムにおける健康危機・災害対策 3) 訪問看護師による健康危機・災害時対応 4) 災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理	講義 演習
8 回	まとめ」・終講試験」	
評価方法	筆記試験、課題学習	
教科書	系統看護学講座 地域・在宅看護論 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論 地域・在宅看護の実践 医学書院 看護がみえる vol.5 対象の理解 I	
備考	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論②	

分野	専門分野 地域・在宅看護論	履修年次	1
科目	49 地域・在宅で療養する対象の看護	単位（時間）	1（30 時間）
講師名	看護師	試験時間	4 5 分
学習目標 1. 在宅療養生活を支える基本的な技術が理解できる・ 2. 在宅で求められる看護技術を習得する。			
回数	教育内容	講義方法	
1、2 回	1. 地域・在宅療養者の看護の特徴 1) 病期に応じた在宅療養者への看護 ・慢性期の在宅療養者と家族の看護 ・急性増悪した在宅療養者と家族の看護 ・終末期の在宅療養者と家族の看護	講義	
3 回	2. 在宅療養生活を支える基本的な技術 1) コミュニケーション ・在宅療養を支えるコミュニケーションの基本 ・コミュニケーション障害のある療養者の特徴	講義 演習	
4～6 回	2) 在宅におけるアセスメント技術 ・ヘルスアセスメントの基本 ・生活からみるヘルスアセスメント ・身体状態のアセスメント 3) 環境整備 ・在宅療養環境の基本 ・療養環境が引き起こす障害の予防 ・福祉用具 ・環境整備に活用できる社会資源 4) 生活リハビリテーション 5) 感染予防 ・在宅における感染防止の基本 ・療養者に感染症が発症した場合の対応	講義 演習	
7～12 回	3. 日常生活を支える看護技術 1) 食生活 ・食に関する包括的アセスメント ・食における援助の技術と実際 ・家族への支援 ・多職種連携、社会資源の活用 2) 排泄 ・在宅療養の場における排泄の基本 ・排泄のアセスメント ・多職種との連携、社会資源の活用と調整 3) 清潔	講義 演習	

	・ 清潔のアセスメント ・ 家族への支援 ・ 社会資源と多職種連携 4) 肢位の保持と移動 ・ 移動能力に関わる身体機能のアセスメント ・ 多職種との連携 5) 呼吸 ・ 呼吸に関するアセスメント ・ 多職種との連携、社会資源の活用と調整 6) 睡眠 ・ 睡眠のアセスメント ・ 睡眠援助の技術と実際 ・ 多職種との連携	
13～14 回	4. 症状等に応じた看護技術 1) 発熱症状 ・ 発熱を引き起こす疾患・状態 2) 消化器症状 ・ 消化器症状を引き起こす疾患・状態 3) 薬物療法 ・ 薬物療法におけるアセスメント ・ 多職種との連携・社会資源の活用 4) 外来がん治療 ・ 外来がん治療におけるアセスメント ・ 外来通院中の在宅療養者に対する援助 ・ 社会資源の活用・調整	講義 演習
15 回	まとめ・終講試験	
評価方法	筆記試験	
教科書	系統看護学講座 地域・在宅看護論 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論 地域・在宅看護の実践 医学書院 看護がみえる vol.5 対象の理解 I	
備考	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論②	

分野	専門分野 地域・在宅看護論	履修年次	1
科目	50 地域・在宅看護援助技術	単位（時間）	1（30 時間）
講師名	看護師	試験時間	4 5 分
学習目標 1. 在宅療養者の健康状態に応じた生活援助技術を習得する。 2. 在宅で医療処置を必要とする療養者とその家族が必要とする援助技術を理解する。			
回数	教育内容	講義方法	
1～2 回	1. 療養を支える看護技術(医療ケア) 1) 排痰ケア ・ 排痰ケアにおけるアセスメント ・ 排痰ケアで生じやすい合併症・トラブル ・ 多職種との連携	排痰ケア	
3～4 回	2) 気管カニューラ管理 ・ 気管カニューラ管理におけるアセスメント ・ 療養者・家族への支援	鼻腔・口腔吸引 気管内吸引	
5～6 回	3) 在宅酸素療法 (HOT) ・ 在宅酸素療法におけるアセスメント ・ 療養者・家族への支援	在宅酸素機器の管理	
7～8 回	4) 在宅人工呼吸療法 (HMV) : 非侵襲的陽圧換気療法 (NPPV) ・ 非侵襲的陽圧換気療法におけるアセスメント ・ 在宅における安全管理と援助 ・ 社会資源の活用・調整		
9 回	5) 在宅人工呼吸療法 (HMV) : 気管切開下間欠的陽圧換気療法 (TPPV) ・ 気管切開下間欠的陽圧換気療法におけるアセスメント ・ 社会資源の活用・調整		
10 回	6) 排尿ケア ・ 排尿ケアにおけるアセスメント ・ 社会資源の活用・調整 7) ストーマ管理 ・ ストーマ管理におけるアセスメント ・ 療養者・家族への支援 ・ 社会資源の活用・調整 8) 在宅経管栄養法 (HEN) ・ 経管栄養法におけるアセスメント ・ 療養者・家族への支援	ストーマケア 胃瘻処置・ケア 経管栄養	

11 回	・社会資源の活用 9) 輸液管理 (在宅中心静脈栄養法、末梢静脈栄養法)	自己血糖測定 インスリン注射
12 回	・輸液管理におけるアセスメント ・療養者・家族への支援 ・社会資源の活用・調整 10) 褥瘡管理	
13 回	・褥瘡発生リスクアセスメントの予防 ・リスクマネジメント ・療養者・家族への支援 ・多職種との連携 11) 足病変のケア	
14 回	・足病変のアセスメント ・リスクマネジメント ・療養者・家族への支援 ・多職種との連携 12) インスリン自己注射	
15 回	・インスリン自己注射におけるアセスメント ・療養者・家族への支援 ・社会資源の活用・調整 13) 在宅 CAPD 管理	
	・在宅 CAPD 管理におけるアセスメント ・リスクマネジメント ・療養者・家族への支援 ・社会資源の活用・調整 14) 疼痛管理	
	・疼痛管理におけるアセスメント ・療養者・家族への支援 ・社会資源の活用・調整 試験 講義のまとめ・テスト	
評価方法	筆記試験	
教科書	系統看護学講座 地域・在宅看護論 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論 地域・在宅看護の実践 医学書院 看護がみえる vol.5 対象の理解 I	
備考	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論②	

分野	専門分野 地域・在宅看護論	履修年次	1		
科目	51 地域・在宅看護演習	単位（時間）	1（30 時間）		
講師名	看護師	試験時間	4 5 分		
学習目標					
1. 在宅看護の特徴をふまえた看護過程の展開ができる。					
2. 在宅療養を支える災害対策について理解できる。					
回数	教育内容	講義方法			
1～2 回	1. 在宅看護過程（事例展開演習） 「脳血管障害のある在宅療養者」 1) 在宅療養における看護過程の特徴 ・療養者・家族の生き方や思いに応じたゴール設定 ・経済力や価値観に応じて社会資源を活用				
3～4 回	2) 在宅におけるヘルスアセスメント ・在宅におけるヘルスアセスメントの基本 3) 情報収集の項目とアセスメントのポイント 4) 在宅療養における看護過程の展開のポイント				
5～6 回	5) 長期目標と短期目標・優先順位 ・ゴール設定における優先順位のポイント 4) 在宅看護計画の立案				
7 回	5) 実施（技術演習） ・訪問時のマナー(学生の基本的姿勢・態度)				
8～9 回	・洗髪 ・陰部洗浄				
10～13 回	・足浴 ・褥瘡処置				
14 回	6) 評価・サマリー ・サマリーについて 講義のまとめ・テスト				
15 回					
評価方法	看護過程記録				
教科書	系統看護学講座 地域・在宅看護論 地域・在宅看護の実践 医学書院 看護がみえる vol.5 対象の理解 I				
備考	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論②				

分野	専門分野 臨地実習	履修年次	2
科目	80 地域・在宅看護論実習Ⅰ (地域理解・へき地実習)	単位(時間)	1(40時間)
講師名	看護師	試験時間	
学習目標 1. 地域の特性および地域の人々との交流を通して、人々の暮らしが人の健康への影響を理解し健康支援を実践する基本的能力を養う。			
	実習目標・内容		
	1. 地域の特徴が理解できる。 1) 地域の歴史が説明(記述)できる。 2) 地域の人口動態が説明(記述)できる。 3) 地域の健康指標が説明(記述)できる。 4) 地域の地域性、生活の場が説明(記述)できる。 5) 地域の価値観と信念が説明(記述)できる。 6) 地域のコミュニティとコミュニティ活動の実際が説明(記述)できる。 2. 地域で生活する人々の暮らしの実際が理解できる 1) 地域の物理的環境が説明(記述)できる。 2) 地域の社会的環境が説明(記述)できる。 3) 地域の文化・人々の関係性が説明(記述)できる。 4) 人々の生活と健康レベルの多様性が説明(記述)できる。 5) ライフサイクルによる影響が説明(記述)できる。 3. 地域で生活する人々の健康問題と生活環境との関係を理解できる。 1) 地域および地域で生活する人々の健康問題と特徴が説明(記述)できる。 2) 地域で行われる健康支援活動(健康づくり)の実際が説明(記述)できる。 3) 地域で行われている介護予防活動の実際が説明(記述)できる。 4) 地域で生活する人々を取り巻く多職種の役割が説明(記述)できる。 5) 地域で生活する人々を支える多職種連携が説明(記述)できる。 4. 地域包括ケアシステムにおける看護の役割および社会資源について理解できる。 1) 地域包括ケアシステムにおける社会資源の活用の実際・自助・互助・公助・共助が説明(記述)できる。 2) 地域包括ケアシステムにおける看護師の役割が説明(記述)できる。 5. 保健医療福祉チームの一員として看護者に求められる基本的姿勢を身につける 1) チームの一員として自分の役割を自覚し、責任を持った行動がとれる。 (健康管理、適宜の連絡・相談・報告、タイムマネジメント) 2) よりよい看護を実践するために、主体的に学習する姿勢をとれる。 (記録・課題の提出期限、意見交換など)		
評価方法	評価表による評価		

分野	専門分野 臨地実習	履修年次	2～3
科目	81 地域・在宅看護論実習Ⅱ	単位（時間）	2（80 時間）
講師名	看護師	試験時間	
学習目標			
1. 地域包括ケアシステムの実際を通して、地域における健康の保持増進、在宅で療養する対象を支援する看護実践に必要な基礎的能力を養う。			
	実習目標・内容		
	1) 対象の健康の保持増進に向けた看護(健康上のニーズ)を理解できる。 (1) 障害の程度、日常生活自立度、認知症の程度、要介護度に応じた支援を説明（記述）できる。 (2) 介護予防や疾病の悪化防止の支援の実際を説明（記述）できる。 2) 地域・在宅で療養している対象の特徴を理解できる。 (1) 対象および家族の生活状況・生活環境を説明（記述）できる。 (2) 対象の健康状態や障害を説明（記述）できる。 (3) 健康状態や障害が日常生活に及ぼす影響を説明（記述）できる 3) 地域・在宅で療養している対象の援助を実施できる。 (1) 対象と家族の意向を尊重した看護を実施できる。 (2) 生活環境や生活能力に合わせた看護方法を説明（記述）できる。 (3) 倫理的配慮の実際（在宅看護における権利擁護）を説明（記述）できる。 (4) 訪問時に必要な基礎的マナーを守ることができる。 (5) 安全管理（緊急時・災害時）を説明（記述）できる。 4) 在宅看護に関わる制度と社会資源および関係職種との連携が理解できる。 (1) 在宅看護を提供するしくみと看護師の役割が説明（記述）できる (2) 対象に適応される社会資源の理解と活用方法が説明（記述）できる。 (3) 地域包括システムにおける多職種連携について説明（記述）できる。 5) 地域で生活する療育児やその家族を支える在宅医療の実際と役割・機能が理解できる。 (1) 疾病や障がいのある小児の特徴を説明(記述)できる。 (2) 疾病や障がいのある小児の学習の実際・内容を説明(記述)できる。 (3) 療育児の健康状態や生活状況に合わせた自立支援の意義や実際が説明(記述)できる。 6) 看護学生として看護倫理に基づく行動がとれる。 (1) 時間管理をし、責任を持った行動がとれる。 (2) よりよい看護を実践するために、主体的に学習に取り組むことができる (3) チームの一員として適切な人間関係をもつことができる。 (4) 地域における健康障害のある人々の権利擁護の重要性を説明できる。		
評価方法	評価表に基づく評価		

分野	専門基礎分野 成人看護学	履修年次	1 年
科目	52 成人看護学概論	単位（時間）	1（30）
講師名	看護師	試験時間	45 分
学習目標 1. 成人の特徴を理解できる。 2. 成人期の発達課題と役割が理解できる。 3. 成人期の健康へ影響する因子が理解できる。 4. 成人の健康生活を促すための看護が理解できる。 5. 病期の特徴とその看護が理解できる。			
回数	内容	講義方法	
1～4 回	1. 成人期にある人の理解 1) 成長発達の特徴 (1) 成人期の発達課題 (2) 成人の役割 (3) 成人各期の健康問題 2) 成人の生活の理解 3) 学習の特徴と看護 (1) おとなの学びの特徴 (2) おとなの学びの目標（エンパワメント）	講義・GW	
5～8 回	2. 成人期にみられる健康障害 1) 生活習慣に関連する健康課題 (1) 生活習慣病の要因 (2) 健康問題の現状と推移 2) 職業に関連する健康課題 3) ストレスに関連する健康課題 4) 生活習慣の是正 (1) 生活習慣病対策 (2) 危険因子の気づきと行動変容を導く看護 (3) 自己効力感を高めるアプローチ法		
9. 10 回	3. 急激な健康破綻から回復を促す看護 1) 健康危機状況にある成人の理解と看護		
11. 12 回	4. 慢性疾患がある患者と家族の看護 1) セルフマネジメントとは 2) セルフマネジメントのための対象理解		
13. 14 回	5 終末期にある患者と家族への看護。		

15 回	1) 緩和ケアを必要とする患者とその家族への看護 2) エンド・オブ・ライフ・ケア 3) 臨死期の看護 講義まとめ・テスト	
評価方法	筆記試験 60% 講義参加・レポート評価 40%	
参考書	ナーシンググラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 成人看護学③ セルフマネジメント メディカ出版 ナーシンググラフィカ 成人看護学④ 周術期看護 メディカ出版 系統看護学講座 専門分野 成人看護学【1】成人看護学総論 医学書院	
自己学習時間	15 時間	自己学習内容 動画学習・予習復習

[illegible]

	系統看護学講座 専門分野 成人看護学【14】耳鼻咽喉 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア		
自己学習時間	15時間	自己学習内容	動画学習・予習復習

[illegible]

	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院		
	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院		
	系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院		
	系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院		
自己学習時間	1 5 時間	自己学習内容	動画学習・予習復習

分野	専門分野 成人看護学	履修年次	2 年
科目	55 排泄機能、生殖機能、免疫機能に障害のある 成人の看護	単位（時間）	1（30）
講師名	看護師	試験時間	45 分
学習目標			
1. 内部環境調整機能障害のある患者の看護が理解できる。			
2. 排尿機能障害のある患者の看護が理解できる。			
3. 身体防御機能の障害のある患者の看護が理解できる。			
4. 性・生殖・乳腺機能障害のある患者の看護が理解できる。			
回数	内容	講義方法	
1～4 回	1. 内部環境調整機能障害のある患者の看護 1) 腎・泌尿器の構造と機能 2) 腎不全患者の看護	講義	
5.6 回	2. 排尿機能障害のある患者の看護 1) 排尿機能障害のある患者の看護 2) 膀胱がん患者の看護		
7～11 回	3. 身体防御機能の障害のある患者の看護 1) 血液・造血器の疾患をもつ患者の看護 （1）急性白血病患者の看護 2) 膠原病をもつ患者の看護 （1）全身性エリテマトーデス（SLE）患者の看護 3) アレルギー性疾患をもつ患者の看護 （1）アレルギー症状に対する看護		
12～14 回	4. 性・生殖・乳腺機能障害のある患者の看護 1) 子宮がん患者の看護 2) 乳がん患者の看護		
15 回	講義まとめ・テスト		
評価方法	筆記試験 80% 講義参加評価 20%		
参考書	ナーシンググラフィカ 成人看護学③ セルフマネジメント メディカ出版 ナーシンググラフィカ 成人看護学④ 周術期看護 メディカ出版 系統看護学講座 専門分野 成人看護学【4】血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学【8】腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学【9】女性生殖器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学【11】アレルギー 膠原病 感染症 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院		

分野	専門分野 成人看護学	履修年次	2 年
科目	56 消化機能、代謝機能に障害のある成人の看護	単位（時間）	1（30）
講師名	看護師	試験時間	45 分
学習目標			
1. 終末期にある患者および緩和ケアを必要とする患者と家族への看護が理解できる。 2. 消化・吸収機能障害のある患者の看護が理解できる。 3. 栄養代謝機能障害のある患者の看護が理解できる。 4. 内分泌機能障害のある患者の看護が理解できる。			
回数	内容	講義方法	
1～6 回	1. 消化・吸収機能障害のある患者の看護 1) 消化器の構造と機能 2) 胃がん患者の看護 3) 大腸がん患者の看護 4) 胆石症患者の看護	講義 演習 1 コマ ストーマ管理	
7～10 回	2. 栄養代謝機能障害のある患者の看護 1) 肝硬変患者の看護（苦痛の緩和とＱＯＬを支える看護を含む）		
11～14 回	3. 内分泌機能障害のある患者の看護 1) 糖尿病患者の看護 2) 甲状腺疾患患者の看護		
15 回	講義まとめ・テスト		
評価方法	筆記試験 80% 講義参加評価 20%		
参考書	ナーシンググラフィカ 成人看護学③ セルフマネジメント メディカ出版 ナーシンググラフィカ 成人看護学④ 周術期看護 メディカ出版 システム看護学講座 専門分野 成人看護学【5】消化器 医学書院 システム看護学講座 専門分野 成人看護学【6】内分泌・代謝 医学書院 システム看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 システム看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院		
自己学習時間	15 時間	自己学習内容	動画学習・予習復習

分野	専門分野 成人看護学	履修年次	2 年
科目	57 成人看護学演習	単位（時間）	1（30）
講師名	看護師	試験時間	
学習目標			
1. 手術を受ける患者の看護が理解できる。 2. 術前・術後に必要な看護技術が習得できる。 3. 事例を通して看護過程が展開できる。			
回数	内容	講義方法	
1～7回	1. 手術を受ける患者の看護 1) 術前の看護 2) 術中の看護 3) 術後の看護	講義・演習	
8～15回	2. 対象の総合的理解とセルフマネジメントを支える看護 1) 看護過程 (1) 情報収集 (2) 手術前のアセスメント (3) 全体像 (4) 看護診断の照合と検証 (5) 看護計画の立案	講義・演習	
評価方法	手術を受ける患者の看護（技術演習含む） 50% セルフマネジメント看護過程 50%		
参考書	ナーシンググラフィカ成人看護学④ 周術期看護 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 成人看護学③ セルフマネジメント メディカ出版 看護がみえる vol.4 看護過程の展開 メディックメディア NANDA I 看護診断 定義と分類 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院		
自己学習時間	15時間	自己学習内容	成人看護学の復習 看護過程の展開

分野	専門分野 老年看護学	履修年次	1 年次
科目	58 老年看護学概論	単位（時間）	1（15）
講師名	看護師	試験時間	45 分
学習目標			
1. 老年期の発達段階およびその特徴を理解する。			
2. 老化・加齢に伴う身体的・精神的社会的変化を知り、ライフステージとその健康課題を理解する。			
3. 社会構造の変化・高齢化に伴う高齢者の保健医療福祉の場における課題を理解する。			
4. 高齢者の家族が抱える問題について理解する。			
5. 老年看護の意義と役割について理解する。			
回数	内容		講義方法
1 回	1. 高齢者の理解 1) 高齢者のイメージ 2) 身体的老化の特徴 3) 精神的老化の特徴 4) 社会的老化の特徴		講義
2・3 回	日本科学未来館「おいパーク」見学		外部施設見学
4 回	1. 老年看護とは 2. 老年看護の特徴 3. 老年看護に用いられる有用な理論・概念 1. ライフステージにおける老年期 4. 高齢者の QOL 5. 高齢化現象と諸問題 6. 家族形態と社会問題		講義
5・6 回	1. 高齢者社会保障 1) 老人医療対策 2) 老人福祉対策 3) 保健・福祉活動		講義 GW 発表
7 回	1. 老年看護における倫理的課題 1) 高齢者差別 2) 身体拘束・高齢者虐待 3) 地域福祉権利擁護事業と成年後見制度		講義
8 回	終講試験		
評価方法	筆記試験 80% 課題 20 %		
参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 国民衛生の動向 厚生統計協会		
自己学習時間	4 時間	自己学習内容	講義内で提示

分野	専門分野 老年看護学	履修年次	2 年次
科目	59 高齢者の健康な生活の保持・増進に向けた看護	単位（時間）	1 (30)
講師名	看護師	試験時間	45 分
学習目標 1. 高齢者の日常生活を支える基本的活動について理解する。 2. 高齢者の日常生活援助方法について理解する。 3. 多様な生活の場における看護の特徴を理解する。 4. 高齢者に起こりやすい事故を認識し急変時の対応を理解する。 5. 災害に伴う高齢者への看護を理解する。			
回数	内容	講義方法	
1 回	1. 日常生活を支える基本的活動 ① 1) 基本動作と環境のアセスメント	講義	
2 回	1. 日常生活を支える基本的活動 ② 1) 転倒やその他の事故のアセスメントと看護 2) フレイルと廃用症候群のアセスメント	講義	
3 回	1. 高齢者の日常生活の看護 ① 1) コミュニケーション (1) 高齢者とのコミュニケーションと関わり方の原則 (2) コミュニケーション能力のアセスメント (3) 高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーションの方法	講義	
4 回 5 回	1. 高齢者の日常生活の看護 ② 1) 食事の援助 (1) 高齢者にとっての食事・食生活の意義 (2) 高齢者に特徴的な変調 (3) 食事・食生活のアセスメントと支援	講義 GW 援助計画作成	
6 回 7 回	1. 高齢者の日常生活の看護 ③ 1) 排泄の援助 (1) 排泄援助の基本 (2) 排泄のアセスメント (3) 高齢者に起こりやすい頻尿・排尿症状・尿失禁とケア (4) 高齢者に起こりやすい便秘・便失禁・下痢とケア (5) ADL 能力に応じた援助	講義 GW 援助計画作成	
8 回 9 回	1. 高齢者の日常生活の看護 ④ 1) 清潔の援助 (1) 高齢者にとっての清潔の意義 (2) 高齢者に生じやすい清潔に関する健康課題 ①皮膚障害 ②清潔のセルフケア能力の変化 (3) 清潔のアセスメントと主な援助	講義 GW 援助計画作成	
10 回	1. 高齢者の日常生活の看護 ⑤ 1) 生活リズムと看護ケア	講義	

	(1) 高齢者と生活リズム (2) 高齢者に特徴的な生活リズムの変調 (3) 高齢者の生活リズムのアセスメントと整えるための援助	
11 回	1. 多様な生活の場における看護① 1) 地域における高齢者への看護	講義
12 回	多様な生活の場における看護② 1) 保健医療福祉施設および居住施設における看護 2) 地域密着型サービスにおける看護	講義
13 回	1. 高齢者と家族の看護 1) 家族の健康と生活 2) 家族への看護	講義
14 回	1. 災害に伴う高齢者の看護 1) 災害における高齢者の脆弱性 2) 災害フェーズと高齢者支援 3) 看護職に求められる役割	講義
15 回	終講試験 まとめ	
評価方法	筆記試験 90 % 講義参加評価 10 %	
参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 メディックメディア	
自己学習時間	8 時間	自己学習内容 講義内で提示

分野	専門分野 老年看護学	履修年次	2 年次
科目	60 健康障害のある高齢者の看護	単位 (時間)	1 (30)
講師名	看護師	試験時間	45 分
学習目標 1. 高齢者に起こりやすい健康障害の特徴を理解する。 2. 健康障害をきたした高齢者の治療過程における看護を理解する。 3. 高齢者に起こりやすい健康障害を理解し、加齢と健康障害の程度に応じた、援助の方法を理解する。			
回数	内容	講義方法	
1 回	1. 健康障害のある高齢者の特徴 1) 高齢者の健康状態 2) 生理的老化と病的老化 3) 高齢者の疾患の特徴	講義	
2 回	1. 入院を必要とする高齢者の看護 1) 高齢者の入院 2) 生活適応を支援する看護 2. 退院時における高齢者の看護 1) 退院調整・退院支援と継続看護 3. 外来を受診する高齢者の看護 1) 外来医療と高齢者の受診状況 2) 外来を受診する高齢者の看護とその実際	講義	
3 回	1. 治療を受ける高齢者への看護 ① 1) 薬物療法 2) 手術療法	講義	
4 回	1. 治療を受ける高齢者への看護 ② 1) リハビリテーション 2) 検査	講義	
5 回	健康逸脱からの回復を促す看護 1. 回復プロセスと看護 1) 健康逸脱から回復への段階 2) 老年期における回復のとりえ方	講義	
6 回	1. 高齢者に特徴的な症状とその看護 ① 1) 摂食・嚥下障害 2) 低栄養 3) 脱水 4) 浮腫	講義	
7 回	1. 高齢者に特徴的な症状とその看護 ② 1) 排尿障害 2) 便秘 3) 下痢	講義	
8 回	1. 高齢者に特徴的な症状とその看護 ③ 1) 寝たきり 2) 褥瘡 3) かゆみ	講義	
9 回	1. 高齢者に特徴的な症状とその看護 ④ 1) 視聴覚の障害 2) 不眠 3) せん妄	講義	
10 回	1. 高齢者に特徴的な症状とその看護 ⑤ 1) 認知症 (VTR 学習含む)	講義	

11 回	1. 身体疾患のある高齢者の看護① 1) 脳卒中 2) 心不全	講義
12 回	1. 身体疾患のある高齢者の看護② 1) パーキンソン病・パーキンソン症候群 2) 肺炎 3) 前立腺 肥大症	講義
13 回	1. 身体疾患のある高齢者の看護③ 1) 変形性関節症 2) 骨折 3) 骨粗鬆症	講義
14 回	1. エンドオブライフケア 1) エンドオブライフケアの概念 2) エンドオブライフケアの構成要素 3) エンドオブライフケアの場	講義
15 回	終講試験 まとめ	
評価方法	筆記試験 90% 講義参加評価 10%	
参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院	
自己学習時間	8 時間	自己学習内容 講義内で提示

分野	専門分野 老年看護学		履修年次	2
科目	61 高齢者看護学演習		単位（時間）	2（30）
講師名	看護師		試験時間	45
学習目標				
1. 高齢者の生活を支えるために必要な基本的な援助技術を習得する。				
2. 加齢や疾病に伴う模擬高齢者の健康課題を捉え、生活機能に着目した看護過程を展開する。				
3. 高齢者を取り巻く社会資源の状況を理解する。				
回数	内容			講義方法
1 回	長期間臥床している対象の生活を支えるための技術			演習
2 回	(1)陰部洗浄 (2)オムツ交換～更衣			
3 回	右片麻痺のある対象の生活を支えるための技術			演習
4 回	(1)ベッドから車椅子への移乗、移送 (2)口腔ケア(義歯装着・洗浄)、トロミ食体験			
5 回	1. 大腿骨頸部骨折患者の看護過程 1) 事例提示 2) 情報整理			演習
6 回	1. 大腿骨頸部骨折患者の看護過程 1) 情報整理～分析・解釈			演習
7 回	1. 大腿骨頸部骨折患者の看護過程 1) 分析・解釈 ①			演習
8 回	1. 大腿骨頸部骨折患者の看護過程 1) 分析・解釈 ②			演習
9 回	1. 大腿骨頸部骨折患者の看護過程 1) 分析・解釈 ③			演習
10 回	1. 大腿骨頸部骨折患者の看護過程 1) 関連図の描写			演習
11 回	1. 大腿骨頸部骨折患者の看護過程 1) 統合と照合 2) 看護診断の確定 3) 看護診断リスト			演習
12 回	1. 大腿骨頸部骨折患者の看護過程 1) 統合と照合 2) 看護診断の確定 3) 看護診断リスト			演習
13 回	1. 大腿骨頸部骨折患者の看護過程 1) 目標の設定 2) 看護計画の立案			演習
14 回	1. 認知症サポーター養成講座			外部講習
15 回	2. 地域ボランティア会員との交流			
	3. 終講試験(レポート作成)			
評価方法	筆記試験(レポート) 80% 講義参加評価 20 %			
参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 NANDA-I 看護診断 定義と分類 医学書院 生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図第4版 医学書院			
自己学習時間	8 時間	自己学習内容	講義内で提示	

分野	専門分野 成人・老年看護学実習	履修年次	2～3
科目	82～86 成人・老年看護学実習Ⅰ～Ⅴ	単位（時間）	2（80 時間）
講師名	看護師	試験時間	
学習目標 1. 成人・老年看護学における実習では、成人看護学・老年看護学および関連科目で学んだ知識を基盤として健康問題をアセスメントし、その対象が健康を維持・回復・増進し、その人らしくよりよく生き、生活できるための看護を展開するための基礎的能力を養う。			
	実習目標・内容		
成人・老年看護学 実習Ⅰ	<ライフサイクルの理解と生活を支える看護、健康の保持増進を支える看護> 様々な場で生活する対象の特徴を理解し、健康の保持増進を支える看護の基礎的能力を養う。また、保健医療福祉システムの連携・協働を理解する。		
成人・老年看護学 実習Ⅱ	<ライフサイクルの理解と健康障害をきたした対象への看護、対象の総合的理解と健康問題への看護> 対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解し、健康問題への基礎的看護実践能力を養う。		
成人・老年看護学 実習Ⅲ	<生命の危機状況にある対象への看護> 生命の危機状況にある対象およびその家族の特徴を理解し、生命の安全を守り自立と円滑な社会復帰に向けた看護の基礎的能力を養う。		
成人・老年看護学 実習Ⅳ	<対象の総合的理解と看護Ⅰ> 慢性期にある対象とその家族を総合的に理解し、セルフマネジメントを支える基礎的看護実践能力を養う。		
成人・老年看護学 実習Ⅴ	<対象の総合的理解と看護Ⅱ> 終末期および緩和ケアが必要な対象とその家族を総合的に理解し、全人的苦痛の緩和と QOL を支えるための基礎的看護実践能力を養う。		

分野	専門分野 小児看護学	履修年次	1
科目	62 小児看護学概論	単位（時間）	1（15）
講師名	看護師	試験時間	30
学習目標			
1. 小児看護の目標と看護の役割について説明できる			
2. 小児期における成長・発達の意味を理解する			
3. 小児を取り巻く環境の変化と保健医療福祉の動向を理解する			
回数	内容		講義方法
1 回	小児看護学講義ガイダンス 小児看護の特徴と理念① 小児看護のめざすところ、子どもと家族の動向、小児看護の変遷		講義
2 回	小児看護の特徴と理念② 小児看護における倫理、小児看護の課題		講義
3 回	子どもの成長・発達① 成長、発達とは、成長・発達の進み方、成長・発達に影響する因子、 成長の評価、発達の評価 新生児・乳児		講義
4 回	子どもの成長・発達② 幼児・学童		講義
5 回	子どもの成長・発達③ 思春期・青年期 学校保健		講義
6 回	子どもと家族を取り巻く社会① 子どもウォッチング		フィールドワー ク
7 回	子どもと家族を取り巻く社会② 子どもの医療、子どもの安全		GW
8 回	終講試験		
評価方法	筆記試験 60 % 講義参加評価 10 % 課題 30%		
参考書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論		
自己学習時間		4 時間	自己学習内容
			講義内で提示

分野	専門分野 小児看護学		履修年次	1
科目	63 子どもの成長発達に応じた看護		単位（時間）	1（30）
講師名	看護師		試験時間	45
学習目標				
1. 子どもへの日常生活の世話と成長・発達を支える看護を理解する				
2. 子どもの権利の保障をすることの必要性が理解できる				
3. 子どもによくみられる症状とその看護について理解する。				
回数	内容			講義方法
1 回	日常生活の世話と成長・発達を支える看護① 子どもの栄養			講義・演習
2 回	日常生活の世話と成長・発達を支える看護② 睡眠、排泄、清潔、衣服の着脱			講義・演習
3 回	日常生活の世話と成長・発達を支える看護③ 遊びと学習			講義・演習
4 回	子どもの事故・外傷と看護			講義
5 回	病気・障害をもつ子どもと家族の看護 入院中の子どもと家族の看護 外来における子どもと家族の看護			講義
6 回	災害時のこどもと家族の看護			講義
7 回	在宅療養中の子どもと家族の看護			講義
8 回	障害のある子どもと家族の看護			講義
9 回	子どもの虐待と看護			講義
10 回	症状を示す子どもの看護① 不機嫌 痛み			講義
11 回	症状を示す子どもの看護② 発熱 嘔吐			講義
12 回	症状を示す子どもの看護③ 下痢 脱水			講義
13 回	症状を示す子どもの看護④ 発疹 呼吸困難 チアノーゼ			講義
14 回	症状を示す子どもの看護⑤ 痙攣 ショック 意識障害			講義
15 回	まとめ 終講試験			
評価方法	筆記試験 80 %	講義参加評価 10 %	課題 10%	
参考書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論			
自己学習時間	7.5 時間	自己学習内容	講義内で提示	

分野	専門分野 小児看護学		履修年次	12
科目	64	健康障害のある子どもの看護	単位（時間）	1（30）
講師名	看護師		試験時間	45
学習目標				
1. 健康障害が子どもや家族に与える影響を知り、その援助方法について理解できる。				
2. さまざまな状況にある子どもと家族への看護が理解できる。				
回数	内容			講義方法
1 回	慢性期にある子どもと家族の看護 代謝性疾患をもつ子どもと家族の看護			講義
2 回	免疫・アレルギー性疾患をもつ子どもと家族の看護			講義
3 回	感染症をもつ子どもと家族の看護			講義
4 回	急性期にある子どもと家族の看護 呼吸器疾患をもつ子どもと家族の看護			講義
5 回	循環器疾患をもつ子どもと家族の看護			講義
6 回	消化器疾患をもつ子どもと家族の看護			講義
7 回	血液疾患をもつ子どもと家族の看護			講義
8 回	悪性新生物疾患をもつこどもと家族の看護			講義
9 回	腎・泌尿器・生殖器疾患をもつ子どもと家族の看護			講義
10 回	神経疾患・運動器疾患を持つ子どもと家族の看護			講義
11 回	精神疾患をもつ子どもと家族の看護			講義
12 回	手術を受ける子どもと家族の看護			講義
13 回	終末期にある子どもと家族の看護①			講義・GW
14 回	終末期にある子どもと家族の看護②			講義・GW
15 回	まとめ 終講試験			
評価方法	筆記試験 70 %	講義参加評価 10 %	課題 20%	
参考書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論 系統看護学講座 専門分野 小児臨床看護各論			
自己学習時間	7.5 時間	自己学習内容	講義内で提示	

分野	専門分野 小児看護学	履修年次	2
科目	65 小児看護学演習	単位（時間）	1（30）
講師名	看護師	試験時間	
学習目標			
1. 小児期の対象を事例とした看護過程の展開について理解する。			
2. 小児看護技術の特徴と看護について理解できる			
回数	内容	講義方法	
1 回	子どものアセスメント アセスメントに必要な技術	講義	
2 回	検査・処置を受ける子どもの看護①	講義	
3 回	検査・処置を受ける子どもの看護②	演習	
4 回	検査・処置を受ける子どもの看護③	演習	
5 回	小児看護過程の特徴 事例紹介	講義	
6 回	看護過程を用いた事例展開① 情報収集	演習	
7 回	看護過程を用いた事例展開② アセスメント①	演習	
8 回	看護過程を用いた事例展開③ アセスメント②	演習	
9 回	看護過程を用いた事例展開④ 看護計画①	演習	
10 回	看護過程を用いた事例展開⑤ 看護計画②	演習	
11 回	看護過程を用いた事例展開⑥ 事例に応じた看護実践①	演習	
12 回	看護過程を用いた事例展開⑦ 事例に応じた看護実践②	演習	
13 回	看護過程を用いた事例展開⑧ 事例に応じた看護実践③	演習	
14 回	看護過程を用いた事例展開⑨ 評価	演習	
15 回	まとめ 終講試験		
評価方法	筆記試験 40 % 講義参加評価 10 % 課題 50%		
参考書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論 系統看護学講座 専門分野 小児臨床看護各論		
自己学習時間	7.5 時間	自己学習内容	講義内提示

分野	専門分野 臨地実習	履修年次	2～3
科目	87 小児看護学実習	単位（時間）	1（80）
講師名	看護師	試験時間	
学習目標 1. 小児期にある小児とその家族の特徴を理解し、成長・発達段階、健康レベルに応じた看護を展開できる基礎的能力を養う。			
	実習目標及び内容		
	【保育園】 1) 小児とのかかわりを通し、小児の特徴を理解できる。 2) 小児の安全を守るための事故予防・健康管理が理解できる。 【病棟】 1) 健康障害のある小児とその家族を統合的に理解できる。 2) 小児の成長・発達、健康障害に応じた援助を実施できる。 3) 小児を取り巻く保健医療チームの連携、小児看護の役割を理解する。 【共通】 1) 実習中に看護学生としての基本的態度がとれる。		
評価方法	評価表に基づき評価する		

分野	専門分野 母性看護学		履修年次	1
科目	66	母性看護学概論	単位（時間）	1（30）
講師名	看護師		試験時間	45
学習目標				
1. 母性看護の概念や対象の身体的・心理的・社会的特徴を統合的に理解する				
2. 母性看護の対象を取り巻く社会の現状や課題を理解し、母性看護の役割を理解する				
3. 女性のライフサイクル各期の特徴と健康問題を理解する				
回数	内容			講義方法
1	母性とは			講義
2	母子関係と家族発達 セクシュアリティ リプロダクティブヘルス/ライツ ヘルスプロモーション			講義
3	母性看護のあり方			講義
4	母性看護の歴史的変遷と現状①			講義
5	母性看護の歴史的変遷と現状② 母性看護の提供システム			講義
6	女性のライフサイクルと家族			講義
7	多様な家族のライフスタイルと発達課題			GW
8	母性の発達・成熟・継承			講義
9	母性看護に必要な看護技術			講義
10	ライフサイクルにおける女性の健康と看護① 思春期の健康と看護			講義
1 1	ライフサイクルにおける女性の健康と看護② 性成熟期に健康と看護 更年期・老年期			講義
1 2	リプロダクティブヘルスケア① 家族計画 性感染症			講義
1 3	リプロダクティブヘルスケア② 人工妊娠中絶 喫煙と女性の健康			講義
1 4	リプロダクティブヘルスケア③ 性暴力を受けた女性に対する看護 児童虐待と看護 国際化社会と看護			講義
1 5	まとめ 終講試験			
評価方法	筆記試験 60%	講義参加評価 10%	課題 30%	
参考書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論			
自己学習時間		7.5 時間	自己学習内容	社会における母性に関連する話題等

分野	専門分野 母性看護学		履修年次	2
科目	68	子どもを産み育てることとその看護	単位（時間）	1（30）
講師名	看護師		試験時間	45
学習目標				
1. マタニティサイクルにおける母子とその家族の健康状態が理解できる				
2. マタニティサイクルにおける対象に必要な看護、切れ目ない支援が理解できる				
回数	内容			講義方法
1 回	子どもを産み育てること 出生前からのリプロダクティブヘルスケア			
2 回	妊娠期の身体的特性			
3 回	妊娠期の心理・社会的特性			
4 回	妊婦と胎児のアセスメント			
5 回	妊婦と家族の看護			
6 回	分娩の要素			
7 回	分娩の経過			
8 回	産婦・胎児・家族のアセスメント 産婦と家族の看護			
9 回	分娩期の援助			
10 回	産褥経過			
11 回	褥婦のアセスメント			
12 回	褥婦と家族の看護 施設退院後の看護			
13 回	新生児の生理			
14 回	新生児のアセスメント 新生児の看護			
15 回	まとめ 終講試験			
評価方法	筆記試験	80%	講義参加評価	10% 課題 10%
参考書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論			
自己学習時間		7.5 時間	自己学習内容	講義内で提示

分野	専門分野 母性看護学		履修年次	2
科目	69	女性（母性）の健康保持増進に向けた看護	単位（時間）	1（30）
講師名	看護師		試験時間	45
学習目標				
1. マタニティサイクルにおける異常とその看護を理解する				
2. 妊娠前からの望ましい健康管理への支援について理解する				
3. 子育て支援の現状と課題について理解する				
回数	内容			講義方法
1 回	妊娠の異常と看護① ハイリスク妊娠、妊娠期の感染症、妊娠疾患			講義
2 回	妊娠の異常と看護② 多胎妊娠、妊娠持続期間の異常、異所性妊娠			講義
3 回	分娩の異常と看護① 産道、娩出力の異常、胎児の異常による分娩障害、胎児付属物の異常、胎児機能不全			講義
4 回	分娩の異常と看護② 分娩時損傷、分娩第 3 期および分娩直後の異常、分娩時異常出血			講義
5 回	産褥の異常と看護① 子宮復古不全、産褥期の発熱、産褥血栓症、異常のある褥婦の看護			講義
6 回	産褥の異常と看護② 育児に困難を抱える母親への看護 メンタルヘルスの問題を抱える母親の支援			講義
7 回	産褥の異常と看護③ 育児に困難を抱える母親への看護 メンタルヘルスの問題を抱える母親の支援			GW
8 回	産褥の異常と看護④ 児を亡くした褥婦・家族の看護			講義
9 回	新生児の異常と看護 新生児仮死 分娩外傷 低出生体重児 高ビリルビン血症			講義
10 回	プレコンセプションケア① プレコンセプションケアとは 課題探求			講義・GW
11 回	プレコンセプションケア② 課題探求			GW
12 回	プレコンセプションケア③ 課題発表			
13 回	子育て支援事業① 課題探求			講義・GW
14 回	子育て支援事業② 課題探求			講義・GW
15 回	まとめ 終講試験			講義
評価方法	筆記試験	50%	講義参加評価	10%
			課題	40%
参考書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論			
自己学習時間	7.5 時間	自己学習内容	講義内で提示	

分野	専門分野 母性看護学	履修年次	2
科目	69 母性看護学演習	単位（時間）	1（30）
講師名	看護師	試験時間	
学習目標			
1. 母性看護に必要な看護過程の理解と事例に応じた看護実践を理解する			
2. マタニティサイクルにおける対象に必要な看護技術を習得できる			
回数	内容	講義方法	
1 回	母性看護過程の特徴 妊婦の看護過程の特徴 妊婦の事例	講義・GW	
2 回	妊婦の看護の実践① 妊婦体験、妊娠期の看護技術	演習	
3 回	妊婦の看護の実践② 妊婦の健康相談 出産前教育	GW・演習	
4 回	妊婦の看護の実践③ 妊婦の健康相談 出産前教育	GW・演習	
5 回	分娩の看護過程の特徴 産婦の事例		
6 回	産婦の看護実践① 分娩シュミレーション	GW・演習	
7 回	産婦の看護実践② 分娩シュミレーション	GW・演習	
8 回	産褥・新生児の看護過程の特徴 褥婦・新生児の情報収集	講義	
9 回	褥婦・新生児の情報分析・解釈・診断	講義	
10 回	褥婦・新生児の看護計画①	講義	
11 回	褥婦・新生児の看護計画②	講義	
12 回	褥婦・新生児の看護の実践と評価① 事例に応じた演習	GW・演習	
13 回	褥婦・新生児の看護の実践と評価② 事例に応じた演習	GW・演習	
14 回	異常経過をたどる対象者の看護過程	講義	
15 回	異常経過をたどる対象者の看護過程	講義	
評価方法	課題 90 % 講義参加評価 10 %		
参考書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論		
自己学習時間	7.5 時間	自己学習内容	講義内で提示

分野	専門分野 臨地実習	履修年次	2～3
科目	88 母性看護学実習	単位（時間）	1（80）
講師名	看護師	試験時間	
学習目標 1. 周産期を中心に母子とその家族への看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。 2. 周産期各期の看護実践や見学を通して生命の神秘や尊厳について理解を深める。			
	実習目標及び内容		
	1) 妊娠期の経過が理解できる。 2) 分娩期の経過が理解できる。 3) 新生児の生理的特徴を理解し、胎外生活適応への援助が理解できる。 4) 産褥期にある母子に必要な看護および保健指導の実際を理解できる。 5) 母子の健康を維持・増進するための社会的支援が理解できる。 6) 生命の神秘や尊厳について考察し、母性看護の役割を理解できる。 7) 実習中に学生として基本的態度がとれる。		
評価方法	評価表による評価		

分野	専門分野 精神看護学	履修年次	1 年
科目	70 精神看護学概論	単位（時間）	1 (15)
講師名	看護師	試験時間	45 分
学習目標 1. 精神看護の変遷を知り、精神看護学の概念を理解する。 2. ライフサイクルと精神の発達危機について理解する。 3. 精神看護の対象及び看護の目的を理解する。			
回数	内容	講義方法	
1 回	1. 精神保健の考え方 1) 精神の健康とは 2) 心身の健康に及ぼすストレスの影響 3) 精神障害という考え方	講義	
2 回	2. 心のはたらきと人格の形成 1) 心のはたらき 2) 心のしくみと人格の発達 3) 自我の構造 4) 防衛機制 5) ストレスとその対処 6) 危機への介入 7) ライフサイクルとアイデンティティ 8) 愛着理論 9) 認知発達理論	講義	
3 回	3. 関係の中の人間 1) 相補的關係と相称的關係 2) 家族の精神と健康 3) 集団と個人：集団同一性～アイデンティティ	講義	
4 回	4. 精神を病むことと生きること 精神の健康に及ぼす因子 1) 生物学的因子：遺伝、生化学物質 2) 物理的環境因子：ホスピタリズム 3) 心理社会的因子：家族、ソーシャルサポート 4) 社会構造因子：スティグマ、文化	講義	
5 回	5. 回復を支援する 生活の場と精神保健 1) 精神保健の考え方 2) 精神保健における予防概念 3) リカバリーを支える力	講義	

6 回	6. 地域におけるケアと支援 地域における精神保健活動 1) 地域社会を支えるシステムと社会資源 2) 地域におけるケアの方法と実際 3) 災害時における精神保健活動			講義
7 回	7. 社会の中の精神障害 1) 精神医療の歴史 2) 精神障害と法制度			講義
8 回	まとめ／終講試験			
評価方法	筆記試験	%	講義参加評価	%
参考書	系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学【1】 精神看護の基礎 系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学【2】 精神看護の展開 別巻 精神保健福祉			
自己学習時間			自己学習内容	

分野	専門分野 精神看護学	履修年次	2 年
科目	71 精神看護援助技法	単位（時間）	1 (30)
講師名	看護師	試験時間	45 分
学習目標 1. 精神に障害をもつ対象に対する倫理的な関わりを理解する。 2. 精神に障害をもつ対象の回復に向けた安全な治療環境を理解する。 3. 診察・検査治療を受ける対象に必要な看護を理解する。			
回数	内容	講義方法	
1～2 回	1. 看護の対象及び看護師の役割 1) 精神科での治療の特徴 2) 倫理と人権擁護 3) リスクマネジメントの考え方 4) リスクマネジメントの実際	講義	
3 回	2. 安全な治療環境の提供 1) 病棟環境の整備と行動制限 2) 包括的暴力防止プログラム 3) 災害時の安全確保	講義	
4・5 回	3. 診察・検査および治療に伴う看護 1) 診療に伴う看護 2) 検査に伴う看護 3) 薬物療法に伴う看護 4) けいれん療法を受ける患者の看護 5) 精神療法を受ける患者の看護 6) 社会療法を受ける患者の看護	講義	
6～7 回	4. 精神科リハビリテーション療法を受ける患者の看護 1) 精神科リハビリテーションと地域精神保健 2) 地域におけるリハビリテーションサービス 3) 精神科リハビリテーションと今後の課題	講義	
8 回	5. 回復を支えるプログラム 1) 社会生活技能訓練（S S T） 2) 認知行動療法	講義	
9 回	6. 精神に障害をもつ人との関係の振り返り 1) 振り返ることの意味 2) プロセスレコード	講義	
10～11 回	7. リエゾン精神看護 1) リエゾン精神看護の歴史 2) リエゾンナースの活動の実際	講義	
12～13 回	8. 災害時のメンタルヘルスと看護 1) 災害にみまわれた人の心理とケア 2) 支援者のメンタルヘルスとケア	講義	

14 回	9. 看護師のメンタルヘルス 1) 感情労働としての看護		講義
15 回	まとめ/終講試験		
評価方法	筆記試験	%	講義参加評価 %
参考書	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	精神看護学【1】精神看護の基礎 医学書院
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	精神看護学【2】精神看護の展開 医学書院
自己学習時間		自己学習内容	

分野	専門分野 精神看護学	履修年次	2 年
科目	72 精神に障害のある対象の看護	単位（時間）	1 (30)
講師名	看護師	試験時間	45 分
1. 障害をもちながら生活する対象に必要な支援方法を理解する。 2. 障害をもつ患者の家族に対する必要な援助を理解する。			
回数	内容	講義方法	
1 回	1. 精神に障害をもつ人とのかかわり方 1) 精神に障害をもつ人の理解と関わり方 2) 「患者－看護師」関係の理解	講義	
2～3 回	2. 精神に障害をもつ人とのコミュニケーション 1) コミュニケーションの種類と特徴 2) 精神に障害をもつ人とのコミュニケーション 3) 接近・接触技法	講義 ➢コミュニケーション技法、パーソナルスペースを実践してみる	
4～6 回	3. 精神症状と状態の理解と看護 1) 精神症状の理解 (1)統合失調症 (2) 妄想性障害 (3) 気分(感情)障害 (4) 不安障害 (5) 強迫障害 (6) 適応障害 (7) 解離性障害	講義・GW ➢疾患と症状・治療について、看護的視点からとらえ、具体的援助につなげる	
7～8 回	4. 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群 (1) 摂食障害 (2) 睡眠障害 (3) 性同一性障害 (4) パーソナリティ障害 (5) アルコール症 (6) てんかん	↓	
10～11 回	5. 認知症の状態にある患者の看護		
12～13 回	6. 緊急事態への対処 1) 自殺対策 2) 自殺のリスクアセスメント 3) 暴力 4) 無断離院	講義	
14 回	7. 患者家族の理解とその援助 1) 患者家族の心理 2) 家族の負担 3) 家族が危機を乗り越えるための援助	講義	
15 回	まとめ／終講試験		
評価方法	筆記試験 90% GW 参加評価 10%		
参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学【1】精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学【2】精神看護の展開 医学書院 課題図書 : 中村ユキ、わが家の母はビョーキです 1・2、サンマーク出版		
自己学習時間		自己学習内容	

分野	専門分野 精神看護学		履修年次	2 年
科目	73 精神看護学演習		単位（時間）	1 (30)
講師名	看護師		試験時間	45 分
学習目標				
1. 精神看護の基本技法を学び、対象理解及び援助に必要な働きかけ方を理解する。				
2. 精神に障害のある対象の看護過程が展開できる。				
3. 看護過程の展開をとおり、具体的な援助が理解する。				
回数	内容			講義方法
1 回	1. 精神に障害のある対象の理解 1) 事例展開する患者の症状と看護			講義
2～10 回	2. 精神に障害のある対象の看護過程の展開(事例展開) 1) 情報整理と分析 2) 看護問題の明確化 3) 看護計画の立案			事例検討
11～14 回	3. 看護援助技法演習(事例をもとに) 1) 社会生活技能訓練(ＳＳＴ) 2) プロセスレコード			SST プロセスレコード
15 回	まとめ／終講試験			
評価方法	筆記試験 50 % 演習課題・演習参加評価 50%			
参考書	系統別看護学講座	専門分野Ⅱ	精神看護学【1】	精神看護の基礎
	系統別看護学講座	専門分野Ⅱ	精神看護学【2】	精神看護の展開 医学書院
自己学習時間			自己学習内容	

分野	専門分野 臨地実習	履修年次	1
科目	89 精神看護学実習	単位（時間）	2（80 時間）
講師名	看護師	試験時間	
学習目標 1. 精神に障害をもつ対象に看護を理解し、健康回復および社会適応に必要な基礎的な看護実践能力を養う。			
	実習目標・内容		
	1) 精神に障害をもつ対象とその家族を理解する。 2) 患者－看護師関係を通して、治療的かかわりの基礎的能力を理解する。 3) 精神に障害をもつ対象のセルフケアレベルに応じた援助を実践する。 4) 精神に障害をもつ患者の特殊な環境について理解する。 5) 精神に障害をもつ対象に社会生活を営むための支援について理解する。 6) 看護学生として看護倫理に基づく行動がとれる。		
評価方法	評価表に基づく評価		

分野	看護の統合と実践		履修年次	3
科目	74 国際・災害看護		単位（時間）	1（30）
講師名	非常勤講師・看護師		試験時間	課題
学習目標				
1. 災害看護の基礎知識と看護の実際を理解し、看護職の役割について考えることができる。				
2. 国際看護に関する基礎的知識を身につけることができる。				
回数	内容			講義方法
1 回	1. 災害看護・国際看護について			講義
2 回	2. 災害看護の基礎知識			講義
3 回	3. 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護			講義
4 回	4. 災害看護の実際―各期の特徴と看護 1) 発生から出動するまでの看護			講義
5 回	2) 災害急性期の看護			講義
6 回	3) 災害発生時の病院における看護			講義
7 回	4) 災害亜急性期の看護			講義
8 回	5) 慢性期・復興期の看護			講義
9 回	6) 災害時に必要な技術			演習
10 回	5. グローバル化に伴う世界の健康目標と課題			講義
11 回	6. 国際看護の概念と必要性 1) 国際看護の定義と国際看護に関する基礎知識			講義
12 回	2) 健康を取り巻く政界の情勢と国際看護			講義
13 回	3) 国際救護と看護			講義
14 回	4) 文化制度を考慮した在留外国人への看護実践			講義
15 回	講義まとめ・試験			講義・試験
評価方法	筆記試験（レポート）	%	講義参加評価	%
テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践【3】 災害看護学・国際看護学 医学書院			
自己学習時間			自己学習内容	

分野	看護の統合と実践	履修年次	3
科目	75 看護管理	単位（時間）	1（15）
講師名	看護師	試験時間	45 分
学習目標			
1. 看護管理の目的と機能について理解する			
2. 組織の一員としての看護師の役割や行動を理解する			
3. リーダーシップとメンバーシップを理解し、マネジメントの基礎を理解する。			
4. 看護を経営的・経済的側面から考えられる			
回数	内容		講義方法
1 回	看護におけるマネジメントの目的とプロセス		講義
2 回	看護職としてのセルフマネジメント		講義
3 回	医療・看護における質の保証と看護		講義
4 回	看護業務のマネジメント		講義
5 回	看護と経営		講義
6 回	マネジメントに必要な知識と技術		講義
7 回	看護を取り巻く諸制度		講義
8 回	講義まとめ・試験		講義・試験
評価方法	筆記試験（レポート） 50 % 講義参加評価（事前課題・小テスト・授業態度） 50 %		
テキスト	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践【1】 看護管理 医学書院		
自己学習時間		自己学習内容	

分野	看護の統合と実践	履修年次	3
科目	76 医療安全	単位（時間）	1（30）
講師名	非常勤講師・看護師	試験時間	課題等
学習目標			
1. 医療職を取り巻く社会環境と医療現場の現状を理解する			
2. 医療安全における安全管理の必要性を理解する			
3. 安全管理の方法を理解する			
4. 医療事故の分析を通じて自分の問題としてとらえ、予防対策や事故発生時の対処方法について理解する			
（リスクマネジメントにおける気づく力を高めることができる）			
回数	内容	講義方法	
1 回	医療安全とリスクマネジメント	講義	
2 回	医療事故と看護業務	講義	
3 回	看護事故の構造 ヒューマンエラー発生メカニズム	講義	
4 回	看護事故防止の考え方 ① 「してはならないことをしない」	講義	
5 回	② 「すべきことをする」	講義	
6 回	医療事故要因分析と対策の実際 ① 危険予知トレーニング	演習	
7 回	② 分析手法	演習	
8 回	診療の補助の事故防止	講義	
9 回	療養上の世話に関する事故防止	講義	
10 回	業務領域を超えて共通する間違いと発生要因	講義	
11 回	医療安全とコミュニケーション	講義	
12・13 回	実際に起こった医療事故事例分析 ① 原因と誘因・事故後の対応について ② 予防策の考察	演習	
14 回	組織的な安全管理体制への取り組み 教育・システム・インシデントレポートの分析・活用方法	講義	
15 回	講義まとめ・試験	試験	
評価方法	筆記試験（レポート） 50 % 講義参加評価（事前学習・演習参加度・授業態度） 50 %		
参考書	系統別看護学講座 看護の統合と実践【1】 医療安全 医学書院		
自己学習時間		自己学習内容	

分野	看護の統合と実践		履修年次	3
科目	77 臨床実践技術		単位（時間）	1（30）
講師名	看護師		試験時間	90
学習目標				
1. 質が高く安全な看護実践を導くための思考を育む				
2. 複合的な条件の事例に対し、予測性をもって実践できる能力を習得する				
回数	内容			講義方法
1 回	1) 看護師の思考を学ぶターナーの臨床判断モデルについて			講義
2 回 3 回	1. 臨床判断モデルを取り入れた事例演習① 1) 気づく・解釈する：間違い探し演習 2) 臨床推論ステップ 3) 医療者間の情報伝達の工夫-I-SBARC			講義・演習
4 回 5 回	2. 臨床における看護実践の特徴 1) 実習と臨床現場との違い 2) 日常業務のマネジメント			講義
6 回 7 回 8 回	4. 複数受け持ち患者多重課題発生事例①			講義・演習 教員実演による シミュレーション
9 回 10 回 11 回	5. 複数受け持ち事例②			演習
12 回 13 回 14 回	6. 複数受け持ち患者への看護実践と状況への対応			演習 シミュレーション
15 回	7. 自己の看護技術の達成度と課題の明確化			終講試験
評価方法	筆記試験（レポート） 30 % 講義参加評価（事前課題・演習記録・小テスト・授業態度） 70 %			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【1】 看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【2】 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【4】 臨床看護学総論 医学書院 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践【2】 医療安全 医学書院 系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院			
自己学習時間			自己学習内容	

分野	専門分野 臨地実習	履修年次	3
科目	90 統合実習	単位（時間）	2（80 時間）
講師名	看護師	試験時間	
学習目標			
1. 既習の知識と技術を統合し、看護職の倫理に基づく対象への看護実践能力を修得する			
	実習目標及び内容		
	1) 病棟の看護管理の実際について理解できる。 2) 看護チームにおけるリーダー・メンバーの役割について理解できる。 3) 複数の対象者に対し、限られた時間内で実習病棟のケアプランに則って必要なケアを判断し提供する 4) 他部門における看護の実際について知ることができる。 5) 保健医療福祉のチームにおいて、安全かつ効率的に看護を実践していくための役割遂行、看護管理、多職種との連携・協働について理解できる。 6) 看護師として必要な態度や自己の課題を明確にする。 7) 保健医療福祉チームの一員として看護者に求められる基本的姿勢を身につける		